

Comments on Q3（自由記述）

No	氏名	居住地域	国名	所属機関種別	年齢	問3 意見に関連する「地球環境の変化を示す項目」	ご意見
J001	[-]	アジア	日本	大学研究機関	40代	1.気候変動	自然科学と社会の真の意味での協働が必要。エビデンス・ベースト・ポリシーの実装。
J003	[-]	アジア	日本	大学研究機関	50代	9.社会、経済と環境	地球環境の現状を人々に正しく知らせるマスコミの協力が必要である。注意すべきは、正しく伝えることである。視聴率を目指した番組は止めて欲しい。正しくとは、いろいろな考えをもつ専門家をバランスの取れた数で議論できる場だと思う。
J004	[-]	アジア	日本	その他	50代	10.その他	核戦争が発生すれば、地球環境破壊が一気に進むと大変憂慮します。
J006	竹村 公太郎	アジア	日本	企業	70代以上	1.気候変動	エネルギー対策が出来ていない。
J007	町田 光	アジア	日本	その他	70代以上		パリ会議におけるCO2の各国削減目標が極めて低く、（特にアメリカ、日本、中国）地球の温度上昇が1.5℃以上になり、今対策を行わないと取り返しがつかないことになる。
J009	日高 伸	アジア	日本	その他	70代以上	3.陸域系の変化(土地利用)	中国の内モンゴル地区の生態系（草原の植生、土壌の衰退、水源の枯渇）悪化は大変な危機かと思われます。
J010	[-]	アジア	日本	その他	70代以上	1.気候変動	米国が政治的にもCO2削減は困難な様子である。今後、新型コロナ対応で財政的に苦しくなり、CO2削減までは考えが及ばないのではないか。
J011	[-]	アジア	日本	その他	60代	2.生物圏保全性(生物多様性)	生物保全性に関して、2019年5月に「100万種の動植物が絶滅の危機に瀕している」とのIPBES（日本を含む132か国の政府が参加する機関）の報告は改めてショッキングな内容でした。生物を絶滅の危機に晒す5つの要因（①生息地の縮小 ②乱獲 ③地球温暖化 ④汚染 ⑤外来種の侵入）について、真剣な議論と行動がこれまでに必要です。
J012	[-]	アジア	日本	その他	70代以上	1.気候変動	気候変動は年々少しずつ変化。大気中排気ガス等の環境への悪影響を少しずつでも低下させるべきと思う。
J013	[-]	アジア	日本	その他	70代以上	1.気候変動 7.食糧 8.ライフスタイル 9.社会、経済と環境	地球環境のなかでも、気候変動による災害発生を危惧している。これは、食糧問題とも大いに関連していき、日本が他国に大半を依存している現状を改善すべきであり、自国での食糧確保のため国の強力な政策が必要である。原発依存のエネルギーを即時撤廃して、各自の個人のライフスタイルを改めていくべきである。
J014	[-]	アジア	日本	その他	70代以上	1.気候変動	地球全体として余裕がないのは、気候変動に関連した温室効果気体の削減で、世界中のすべての国が努力していかなければならない。気候破壊を招かないように。
J015	[-]	アジア	日本	NGO／NPO	70代以上		人間のエゴが地球環境を悪くしているのは事実であるのに、特に政府指導者、行政に全く意識が欠如しているときと思えない。
J016	森田 知都子	アジア	日本	NGO／NPO	70代以上	9.社会、経済と環境	気候変動の影響は深刻です。危機を感じています。世界のあらゆる国が持続に向けた政策を取るべきです。世界の人々がライフスタイルを変革すべきです。その礎となる教育（子どもだけでなく）が重要だと考えます。
J018	[-]	アジア	日本	大学研究機関	60代	1.気候変動 2.生物圏保全性(生物多様性) 3.陸域系の変化(土地利用)	地球環境問題は、複雑系マターであり、相転移が起る危険性についてももっと論理的な説明が必要と思われる。
J019	長谷 敏夫	アジア	日本	大学研究機関	70代以上	1.気候変動 2.生物圏保全性(生物多様性) 9.社会、経済と環境	人工の毒物が地球を汚染し続け、これを食べる人類も健康、生命に危険あり。電磁波が強くなるばかり、いつまで人体が耐えられるか。5Gなるもの極めて危険。石油、石炭を燃やし続けて止めることなし。航空機、自動車は増加する一方、どうしても止まらぬ。これでは希望が持たない。放射能を作り続ける原発もやめられず、どうしようもない日本に住みたくない。
J020	大久保 忠旦	アジア	日本	その他	70代以上	1.気候変動 9.社会、経済と環境	30年程前の気象学者によるマナベモデル（大気・海洋循環）の予測に近い現象が、ここ3年間の気象的異常として現れている。人々の意識は高まっているが、自然再生エネルギー研究妨害（経産省関係者・企業による）は続いている。原発推進も嘘が多いままで通っている。
J021	[-]	アジア	日本	地方自治体	20代	1.気候変動	雪国と言われる地域に住んでいますが、温暖化のおかげで積雪が減り、自転車でも通勤が可能となり便利になりました。温暖化による恩恵もあるのではないかと可能性を見出しています。
J022	[-]	アジア	日本	企業	50代	2.生物圏保全性(生物多様性)	新型ウィルス感染症の流行にみられるように、人類もまた、きわめて微妙なバランスの中で活かされている存在である。希少生物保全の取り組みは、人類自身にも向けられないといけない。
J023	[-]	アジア	日本	大学研究機関	70代以上	1.気候変動	日本のパリ協定に対する2030年目標の見直しで一步進まなかったことは残念。国民の話題にもしていない政府にがっかり、先進国の手本になるべき。
J024	山田 和司	アジア	日本	大学研究機関	60代	1.気候変動	地球温暖化について、ローマクラブのような賢人会議を組織して、①現状 ②問題・課題 ③対応方策・実施工程について、わかりやすくまとめていただき、これを全地球市民が共有するとともに、個々の政府に推進を促す時期にきているのではないのでしょうか。
J026	和佐田 裕昭	アジア	日本	大学研究機関	50代		気候変動はますます進んでいるにもかかわらず、法制度などの整備が追いついていないように思えてなりません。
J027	大江田 憲治	アジア	日本	NGO／NPO	60代	9.社会、経済と環境	IT化とグローバル化で加速する『勝者全取りの資本主義』について、議論が必要。
J028	[-]	アジア	日本	中央政府	50代	1.気候変動 2.生物圏保全性(生物多様性) 8.ライフスタイル 9.社会、経済と環境	IPCCやIPBESのレポートにもあるように、地球環境は危機的な状況。社会変革を起こさなければ、取り返しのつかない事態が起こりかねない。我々一人ひとりが生き方を見直し、自分事として取り組みないと、将来世代に大きなツケを回すことになる。その為には、一定程度のガマンや負担も受け入れざるを得ないのではないかと。
J029	藤原 信好	アジア	日本	大学研究機関	50代		低欲望社会となって、「不要なものを生産しない。」「必要以上に消費しない。」というトレンドは、日本の若い世代に広まりつつあり、それは環境問題を解決する上ではポジティブだが、経済的指標で計る経済成長に対してはネガティブである。経済成長として統計上カウントできる指標は、「環境に優しく」と下がらざるを得ない。経済をシュリンクさせる施策を、政策責任者は取ることができない。
J030	和田 英太郎	アジア	日本	その他	70代以上	9.社会、経済と環境	新型コロナウイルスの感染拡大が、地球環境問題の対処に善い方向で影響を与えることを期待したい。
J031	[-]	アジア	日本	その他	60代	1.気候変動 9.社会、経済と環境	人々は、気候変動については、目に見える危機として地球環境問題として意識しはじめています。更に、そうした意識を活動につなげようとしているのがSDGsやESGだと思っています。
J032	寺畑 建雄	アジア	日本	その他	70代以上	7.食糧	富裕国での余剰食べ残し等でゴミ処理される食料品を、食料難に悩む途上国で利用できる手だてを考えるべきである。
J033	原 剛	アジア	日本	大学研究機関、NGO／NPO、ジャーナリズム	70代以上	1.気候変動 8.ライフスタイル 9.社会、経済と環境	①は自然の正確な科学的な論理が貫徹されつつある（被害） ⑧⑨は、不安域にとどまっていて、①の進行（警戒域）に直面しても変革は不能、第二のパンデミックを想定
J034	田崎 和江	アジア	日本	大学研究機関	70代以上	10.その他	地球環境問題の第一は、新型コロナウイルスではありませんか？①～⑨の変化はマンネリ化しています。新型コロナウイルスは人類の存続に関する地球全土の問題です。
J035	前畑 進	アジア	日本	企業	70代以上	10.その他	「時はまさに桜の季節」ですが、全世界的な「コロナ禍」により非日常な状態が続いています。こういう時は、高齢になった小生は「普通の日常が実は非日常ではないか」と思い起こします。地球環境に則した行動を日常的に、しかも謙虚に続けることの大切さを実感致します。御法人の継続した取り組みに敬意を表します。
J037	[-]	アジア	日本	その他	60代	8.ライフスタイル 10.その他	世の中が資源消費型のシステムとなっているように思う。情報機器や各種機械はもっと長く使えるように意図して設計されるべきである。氷河の年々の後退が気になる。
J039	西川 智	アジア	日本	大学研究機関	60代	4.生物化学フロー(環境汚染)	マイクロプラスチック汚染について、この2年位で急速に意識が高まってきたことは、良いことだと思います。
J040	[-]	アジア	日本	企業	50代	1.気候変動	企業トップの明確な意思表示が必要。
J041	[-]	アジア	日本	大学研究機関	30代		多くの問題が一般に広がっていないことが問題。
J042	谷口 真吾	アジア	日本	大学研究機関	50代	3.陸域系の変化(土地利用)	陸域系の土地利用による亜熱帯林の森林領域面積の変化が特にここ数年大きいと感じる。森林を耕地や宅地にすることをさせない制限をする強い法体系を確立しないといけないと思う。
J043	[-]	アジア	日本	大学研究機関	60代	1.気候変動 9.社会、経済と環境	気候変動への対策として、啓蒙の時期は過ぎて、社会として法整備の段階にあると思います。

Comments on Q3（自由記述）

No	氏名	居住地域	国名	所属機関種別	年齢	問3 意見に関連する「地球環境の変化を示す項目」	ご意見
J044	勝田 悟	アジア	日本	大学研究機関	50代	1.気候変動 2.生物圏保全性(生物多様性) 5.水資源 8.ライフスタイル 9.社会、経済と環境	長期間を要する環境変化は、一時的に意識（社会動向）が高まって（注目されても）、長期間維持した対策を行っていくことが困難である。長期間かけての価値観の改善が必要である。
J045	山本 晴稔	アジア	日本	その他	70代以上	1.気候変動 6.人口	・温暖化が進行して自然災害が多発していると思う。 ・開発途上国への質の高い教育・指導が不可欠。 ・安全な飲料水が確保出来ない国・地域への手厚い指導、援助が必要。
J046	早川 洋行	アジア	日本	大学研究機関	50代	4.生物化学フロー(環境汚染)	コロナ禍で水や大気がきれいになった。人間活動が自然に負荷を与えていることが証明された。人類はこのことを肝に銘じるべきである。
J047	[-]	アジア	日本	地方自治体	50代	1.気候変動	気候変動に伴う経済損失を考えると、早急に国をあげて対策に投資していく必要があると思います。
J048	武井 幸久	アジア	日本	地方自治体	70代以上	1.気候変動 2.生物圏保全性(生物多様性)	新型コロナウイルスの猛威が象徴するように、環境の側から「有機体-人」に対しての破壊的な力が迫っている。気候変動も物理的に実感できるほどに進んできている。西欧では「絶滅への反逆」という左翼的な活動が目立つものの、「有機体-人」の活動は、環境への圧力を増すばかりのように感じられる。怖れと悲しみがどんどん強くなっている。
J049	進士 五十八	アジア	日本	大学研究機関	70代以上	9.社会、経済と環境	私は2010年 COP10(B.D)のSATOYAMA Initiative政府方針作成委員長をつとめ、その後も福井県里山里海湖研究所長としてB.DやSDGsの推進を目指しているが、B.Dの他にEconomy D., Life style D., Landscape D.をすすめるべきだと主張している。経済・社会・文化の持続性のために不可欠であるからだ。4つのDiversityをバランスよく追求すべきだと考える。
J052	[-]	アジア	日本	その他	70代以上	9.社会、経済と環境	地球環境を子供の時から学習（小中学校）して、教育が必要です。大人になっては、このような問題をほとんど勉強しないと思うから。
J053	[-]	アジア	日本	その他	60代	6.人口	新型コロナウイルスの感染拡大により経済活動が低下し、それにより多くの環境改善が見られる。地球環境問題の根源は人の多さと人の活動にあるのは明白。人口の多さと地球環境改善に解はあるのか？
J055	[-]	アジア	日本	地方自治体	40代	1.気候変動 2.生物圏保全性(生物多様性) 7.食糧	持続可能な食糧資源維持のためには、生物多様性を守り、気候変動の影響がある中でも多様な対応が可能であるような環境システムが成立する必要がある。同様に、気候変動による想定外の災害に対して、生物多様性を守り、食糧と物理的安全性のどちらも担保できる社会システムを構築する必要がある。
J056	大森 正之	アジア	日本	大学研究機関	60代	9.社会、経済と環境	炭素税の導入が進んでおらず、石炭火力発電への依存が続いている。当該税の導入が不可欠である。
J057	[-]	アジア	日本	大学研究機関	70代以上	4.生物化学フロー(環境汚染)	新型コロナウイルス感染がパンデミックになっていることに注目している。化学兵器の管理ミスで拡散したとの説もあるが、人類のおごりに対するしっぺ返しということもできる。
J060	名取 洋司	アジア	日本	大学研究機関	40代	1.気候変動 2.生物圏保全性(生物多様性) 8.ライフスタイル 9.社会、経済と環境	トランスフォーマティブチェンジが必要と言われながら、行動が全く変わっていないのが問題だと思います。COVID-19を受け、V字回復を目指すのではなく、全く違った世界の姿（良い方向の）を形成するL字改革が必要と考えます。
J061	[-]	アジア	日本	大学研究機関	50代	1.気候変動 9.社会、経済と環境 10.その他	地球環境問題より緊急かつ目の深刻な問題が差し迫っているため、地球環境問題対策は大きく遅れることが懸念される。
J062	[-]	アジア	日本	地方自治体	50代	8.ライフスタイル	環境問題というカテゴリーでは、一般的に考えられていませんが、今般世界中で対応に苦慮しているCovid-19のような感染症対策（問題）も人類存続の大きな危機と実感しています。広域に人が移動するライフスタイルの見直しを迫られているようでもあり、考えさせられます。
J064	[-]	アジア	日本	企業	50代	10.その他	アメリカの考え方が不安。
J065	与五沢 和良	アジア	日本	【-】	70代以上	4.生物化学フロー(環境汚染) 9.社会、経済と環境	4.海洋汚染について プラスチックごみが海岸に溢れている様子は、見るに堪えない惨状である。国際条約で浄化の取り組みをするのは基よりであるが、一早くわが国から対応を始めるのも大国？としての使命かも、、、 9.社会、経済と環境、政策、施策 新コロナ対策で各国の対応の違いが見えた。自国中心も政治的には止むを得ないが、地球環境の悪化（新型コロナウイルス蔓延による生存環境の悪化）という人類共通の課題に対する各国の連帯も必要と考える。
J066	梅崎 輝尚	アジア	日本	大学研究機関	60代	10.その他	今回は、新型コロナウイルス拡大の影響が大きく、本質的な環境問題が見えにくくなっている。恒常的な問題と一過性のものは区別する必要があると思います。
J067	[-]	アジア	日本	その他	70代以上	1.気候変動 9.社会、経済と環境	地球温暖化によるとみられる台風、集中豪雨によって家屋の倒壊、流出、田畑の流失、山林の崩壊等による社会経済と環境に及ぼす影響は大であり、保全政策が緊急の課題となっている。
J068	登米 久雄	アジア	日本	その他	70代以上	1.気候変動 9.社会、経済と環境	世界の国々で個々には進んでいるが、国際社会では協調して進んでいるとは思えない。特に米国トランプ大統領のような科学的知見を理解しないリーダーがいる限りは。
J069	大串 信昌	アジア	日本	その他	70代以上	1.気候変動	地球温暖化による異常な気象現象により、我が国のみならず各国・地域で甚大な被害をもたらしている。これには手遅れにならぬよう地球規模での早急な対策が必要であり、各国いがみ合っている場合ではない。
J070	[-]	アジア	日本	大学研究機関	30代	7.食糧 8.ライフスタイル 9.社会、経済と環境	各々の意識の変化は見受けられるが、全体として環境は悪くなっているので、より良い改善策や意識の見直しが必要である。
J071	[-]	アジア	日本	地方自治体	50代	1.気候変動 5.水資源 8.ライフスタイル 9.社会、経済と環境	夏場の渇水や豪雨・洪水といった異常気象が身近に迫っていることに、人々は気づき始めてはいる。しかし、私たちの生活、事業活動が地球温暖化ガスの大気中濃度の増加、延いては急激な気候変動を招いている主原因であることに、人々は目を背け続けている。 経済や国益が優先され、ライフスタイルの転換への忌避が見られるなど、対策を講じる必要性を気に始めてはいても、行動にはまだ結びついていないと考えられる。
J072	[-]	アジア	日本	その他	70代以上	1.気候変動 9.社会、経済と環境	世界的にはかなり進展がみられるが、米国連邦政府の動向がネックとなっている。
J073	[-]	アジア	日本	大学研究機関	40代	1.気候変動	近年、予想をはるかに越えた異常気象が起き、全国各地で多大なる被害が起きていることに不安を感じています。
J074	中島 直彦	アジア	日本	NGO／NPO	70代以上	1.気候変動 5.水資源 9.社会、経済と環境	1.は短期間には変えられない 5.条件として深刻 9.は1.に対抗する手段として重要。5.は協調から分断に傾く世界の中で顕在化すると危機。

Comments on Q3（自由記述）

No	氏名	居住地域	国名	所属機関種別	年齢	問3 意見に関連する「地球環境の変化を示す項目」	ご意見
J075	森 孝之	アジア	日本	その他	70代以上	2.生物圏保全性(生物多様性) 7.食糧 8.ライフスタイル	アメリカ型に一元化するライフスタイルを土地柄に沿うそれに転換し、その多様性を尊び、奏で合う美意識と価値観の育成が望まれる。新型コロナウイルス問題はその好機だ！
J076	小野寺 浩	アジア	日本	企業	60代	1.気候変動 6.人口 8.ライフスタイル 9.社会、経済と環境	気候変動が激化し、風水害が多く発生しつつある。水害、治水対策が進められているが、一級河川以外の自治体管理河川対策が進んでいない。スマートシティ構想の実現に向けて風水害リスクを国民に広く情報提供し、多様なスマートシティのあり方を模索する必要があると急務である。
J077	西田 益温	アジア	日本	その他	70代以上		地球環境問題全般に関して、以下の2項目を挙げる。 ・福島原発事故後の処理等とエネルギーに関する諸問題。 ・今回の新型コロナウイルス感染症のPANDEMICの対策に関する諸問題。WHOはあるが、国際的連携ルールに基づく信頼性のある情報の国際的共有と協力体制がより重要である。
J078	近藤 三雄	アジア	日本	その他	70代以上	10.その他	今般のコロナ禍、終息（収束）後、地球環境問題に関してもパラダイムの大転換が必要となり、本アンケートの設問内容の変更、追加を一考する必要があると考えます。（同じ内容での継続性も重要だと思いますが）
J080	原田 博之	アジア	日本	その他	70代以上	1.気候変動	ここ数年の日本の異常な気象変化は予想以上に深刻な災害を及ぼしており、CO2濃度は約400ppmに達している。このままでは2030年頃には春の気温が約28℃、夏には約42℃になるのではないかと危惧されます。石炭発電は即、停止すべきです。また、使用済み高放射能レベルの処理が出来ない原子力発電を中止し、再生可能エネルギーへの転換を急ぐべきです。
J082	[-]	アジア	日本	中央政府	40代		人口の都市への集中と輸入物資への依存により、自国の自然資源のポテンシャルを活かすことなく地球全体として環境への負荷が大きくなった生活をしている。
J083	[-]	アジア	日本	企業	70代以上	8.ライフスタイル	コロナウイルスによる世界的な変化が地球環境に与えるインパクトは大きいように思われる。
J085	[-]	アジア	日本	その他	70代以上	1.気候変動	新型コロナウイルス感染症の発生による世界的な変化が地球環境に与えるインパクトは大きいように思われる。
J089	後藤 隆雄	アジア	日本	NGO／NPO	70代以上	1.気候変動 6.人口 9.社会、経済と環境	今回発生したような新型コロナウイルス感染症が今後も続くかと推定され、近代化以後160年間の見直しがせまられると思います。私たちの祖先がどう生きたのか、縄文時代、平安時代、戦国時代、江戸時代等の庶民生活から学ぶことが重要。
J092	[-]	アジア	日本	地方自治体	40代	2.生物圏保全性(生物多様性)	生物多様性の言葉の認知度が低く、一般の方への重要性の理解が深まっていない。生物圏保全性に関する対策のための予算・資金の充実が必要と思われる。
W002	[-]	アジア	日本	企業	50代	1.気候変動 2.生物圏保全性(生物多様性) 9.社会、経済と環境	関係者の活動やマスコミなどにより一般の人々の認識は少しずつ上がってきているが、対応対策が遅く間に合わない項目が多く発生するだろう。
W003	[-]	アジア	日本	企業	70代以上	5.水資源 6.人口 7.食糧 8.ライフスタイル	人口の爆発的増加は地球歴史始まって以来であり、危機を迎えている。コロナウキルスも人類への警鐘として捉えるべきだろう。
W008	東城 清秀	アジア	日本	大学研究機関	60代	1.気候変動	日本政府はもっと本腰を据えて、政策を考え、実施すべきである。経済優先の政治を少し変えて行くことが求められている。
W009	[-]	アジア	日本	大学研究機関	50代	1.気候変動 4.生物化学フロー(環境汚染) 8.ライフスタイル	地球規模の気象変動が大規模な自然災害の発生を加速していると思います。日常的な災害への備えの意識は我が国では高まっているように思いますが、他国において十分ではないと推察します。新型コロナウイルス感染拡大から、ライフスタイルのグローバル化が予想以上に進んでいることも改めて感じています。感染拡大がこれほどまでに世界経済に深刻な影響を与えていることを、今後の教訓にしなければならないと思います。また、インドなどの医療後進国にみられるロックダウンの政策に鑑み、国際的な支援も重要と思います。マイクロプラスチックによる海洋汚染についても、人類共通の課題として取り組むべきだと思います。
W010	横堀 恵一	アジア	日本	大学研究機関	70代以上	1.気候変動 9.社会、経済と環境	気候変動問題への対応は、一朝一夕では効果のあるものは生まれないので、段階的に進むほかない。ただ、その場合、人々の認識に変化をもたらすには時間がかかるので、緩和策だけでなく適応策も併せて進める必要がある。また、この問題はゼロサムゲームと考えるのではなく、結局は自分たちに降りかかってくる問題と考え、協力や協調という観点で取組を進めるべきだと考える。この点で、国際的には政策の評価をすることは意味があるが、批判の応酬では無く、何が一緒にできるかを考えるべきであると思
W012	[-]	アジア	日本	大学研究機関	60代	1.気候変動	ゼロエミッションが実現できなければ温暖化は止まらないのだ、という認識をもっと強める必要がある。
W013	[-]	アジア	日本	企業	60代	1.気候変動 2.生物圏保全性(生物多様性) 4.生物化学フロー(環境汚染)	地球環境での問題は隠れた環境汚染が最重要と考える。そのために化学物質、大気汚染、水質汚濁問題ははずせない。その上で短期的経済利益を追わざるをえない人間の経済活動により生物多様性への危機、気候変動への危機が顕在化してきていると考える。
W014	[-]	アジア	日本	大学研究機関	70代以上	1.気候変動 2.生物圏保全性(生物多様性) 8.ライフスタイル 9.社会、経済と環境	20歳から40歳代の社会人の認識が低い。小学生では改善していると思うが、環境保全教育を重視した教育が必要だと思われる。
W015	窪田 順平	アジア	日本	大学研究機関	60代	1.気候変動 2.生物圏保全性(生物多様性) 9.社会、経済と環境 10.その他	現在コロナウイルスの世界的な感染によって引き起こされるであろう、社会・経済的な大混乱の規模が予測が、残念ながら現時点では、きわめて不確かである。しかし、一般的には切り離されて議論される環境問題と社会・経済等の社会問題は、状況によっては結びつく可能性がある。つまり、社会経済的な混乱状況に対する環境問題に起因する災害などのインパクトが大きくなることが予想される。
W017	[-]	アジア	日本	大学研究機関	40代	9.社会、経済と環境	政策までには至っていないにせよ、一般の人々の意識には環境問題が進展しているように思えます。これが正しく反映されるようになればいいのですが。
W018	堤 純一郎	アジア	日本	大学研究機関	60代	1.気候変動 4.生物化学フロー(環境汚染) 9.社会、経済と環境	気候変動に対しては、一歩ずつ進んできているが、効果が現れるまでに時間がかかる。しかし、一部ではグレタ・トゥンベリのような発言をマスコミがセンセーショナルに取り上げたために、方向性を見失っている感がある。マスコミの責任は重大なので、きちんとした対応を望む。ただし、今回の中国発のコロナウイルスの問題を環境汚染として捉えれば、ここまで深刻な問題になるとは意識していなかった。現在、これが世界の社会・経済機構や機能を全て破壊してしまったような状態であり、最も機器的意識が高い問題である。それに伴う経済等の社会システムを立て直すまたは再構築する方針が重要である。
W020	[-]	アジア	日本	大学研究機関	60代	1.気候変動 2.生物圏保全性(生物多様性) 9.社会、経済と環境	生物多様性は、熱帯林を始めとする森林との密接に関連しているため、森林破壊、野生宿主の減少・喪失、人間の森林奥地までの開発等が関係して今回のようなコロナウイルスの蔓延に繋がった事を理解する必要がある。人類の生存には、健全な地球環境が前提で、その大前提が保証されたうえでの社会や経済活動であるという認識への移行が必要な時期に来ていると思われる。
W022	[-]	アジア	日本	地方自治体	40代	10.その他	新型コロナウイルスの蔓延を防止するための方策を世界全体で検討していく必要がある。

Comments on Q3（自由記述）

No	氏名	居住地域	国名	所属機関種別	年齢	問3 意見に関連する「地球環境の変化を示す項目」	ご意見
W023	藤村 コノエ	アジア	日本	NGO／NPO	60代	1.気候変動 9.社会、経済と環境	世界各地で気候災害が頻発しているにもかかわらず、パリ協定での目標達成にむけては各国の利害が絡み合い、なかなか進まない状況が危惧される。そうした中、コロナ感染拡大で世界は疲弊しきっており、気候変動への取組みも停滞やむなしの状況にある。現時点（４月）では感染拡大を止めることが最優先されるべきだが、その後、経済活性化の名のもとにＣＯ２排出量が急増することも考えられる。また途上国での取組みも後退することが予測される。 気候変動問題もコロナも、根本的には行き過ぎたグローバル化と人間のあくなき欲望が要因となっており、気候の危機と今回の感染の危機を受けて、今こそ、私たち人間は、その価値観や生き方、社会、経済システムを見直すべきだと思う。人間の叡智が試されていると思う。
W025	岸 道郎	アジア	日本	その他	70代以上	10.その他	今は、全世界がCOVID19に集中しているので、他のことに答える余裕はないのでは？
W026	西條 辰義	アジア	日本	大学研究機関	60代	8.ライフスタイル 9.社会、経済と環境	将来世代を取り込むこのでない民主制や市場システムを大きく変革する時期にきているのではないのか。
W027	[-]	アジア	日本	大学研究機関	60代	8.ライフスタイル 9.社会、経済と環境	地球環境問題を解決するためには人々のライフスタイルを変えなければならないが、その前に社会の雰囲気を変えないと個人の意識は変わらない。そのためには、そのような方向に社会を誘導する環境・経済政策が重要である。現在、SDGsの概念が中央行政や地方行政のあらゆる政策に取り入れられるようになったが、ありふれた言葉の導入に留まっており、必ずしも人々の心に響くようなものではない。そのような政策に対する一大キャンペーン、あるいはサブリミナル効果を狙った平凡な長期キャンペーンを行うなどして、徐々に人々の意識を変えていく必要がある。
W028	田中 廣滋	アジア	日本	大学研究機関	70代以上	4.生物化学フロー(環境汚染)	コロナ・ウィルスの世界的な感染は、グローバル社会がもたらす環境問題の新たな課題であると考える。
W030	[-]	アジア	日本	企業	50代	1.気候変動	かつては異常気象と言われたような現象が当たり前のことになりつつある。地球温暖化の要因は化石エネルギーの過剰な消費だけによるものなのか。脱炭素以外に取り組むべきことはないのか。
W031	[-]	アジア	日本	大学研究機関	60代	2.生物圏保全性(生物多様性)	今回の新型コロナウイルスによる脅威、影響の大きさを改めて知った。今後、ウィルスを含めた地球生物圏の在り方について再考せざるを得ないのではないのか。
W033	[-]	アジア	日本	大学研究機関	60代	1.気候変動 8.ライフスタイル 9.社会、経済と環境	新型コロナウイルス感染拡大防止に関して、政府・行政、WHOなどの関連機関の初動の対応が経済優先の傾向があったと思われる。パンデミックにいたる主たる原因であろう、気候変動は時間的なスパンは感染拡大の短期的なものとは異なるが、すでに効果的な制御ができない時期にきているように感じる。環境問題解決に向けて人類全体の大きな努力とお金をかける時期ではないか、経済活動を主体としている従来の人類の活動を大きく転換する必要がある。
W034	並木 慎一郎	アジア	日本	その他	70代以上	1.気候変動 4.生物化学フロー(環境汚染) 5.水資源 6.人口 7.食糧 9.社会、経済と環境	自国、自身だけの利益を目指す為政者が目立ち不安は、増すばかりだ。 地球環境問題に、一丸となり取り組むべき組織の現状は機能しておらず、きんとした枠組みは崩壊してしまった。 特に国連の力不足、衰退は寂しい限り、G7、G20も当てにならず、新しい枠組みを求めるしかない。
W035	[-]	アジア	日本	大学研究機関	60代	1.気候変動 6.人口 8.ライフスタイル	ライフスタイルの変化は認められるが、人口の増加は続いており、結局はエネルギー消費も削減できない状況となっている。最近の新型コロナウイルスの蔓延が人間活動の縮小につながれば地球環境の改善が起きるのかも知れない。
W036	中山 智晴	アジア	日本	大学研究機関	50代	8.ライフスタイル 9.社会、経済と環境	グローバル化に伴い世界共通化されていく成長思想（経済発展）に危機を感じている。各地域の気候・文化・風土を再度見直し、それぞれの地域での豊かさを見つめなおして生きていかなければ地球の未来は暗いと感じている。ヒト、モノ、カネが自由に行き来することをグローバル化であると捉えるのではなく、地元根付いた生き方を再構築し、各地域で起きた事象に対しグローバルに助け合う社会がづくりが重要である。豊かさの概念を見つめなおし生物の多様性のみならず、文化の多様性を重んじる生き方が地球の将来を決めていくと感じる。
W037	山田 英徳	アジア	日本	NGO／NPO	70代以上	1.気候変動 2.生物圏保全性(生物多様性) 4.生物化学フロー(環境汚染) 8.ライフスタイル	原発との絡みもあり、脱炭素社会が叫ばれる中、世界全体から見ると余り進んでいないようだ。特に日本の状況は気候変動によると思われる自然災害が拡大してきているにもかかわらず、脱炭素社会の実現に消極的なのは気がかりである。 また、マイクロプラスチックの問題もこれから大きくなってゆくのではないかとと思われる。生物に及ぼす影響が顕在化する時点では手遅れとなる大きな課題である。私たち自身が現在のライフスタイルをしっかりと見直し、そうした課題に真剣に取り組んでゆくことが必要であろう。
W039	[-]	アジア	日本	NGO／NPO	60代	1.気候変動 2.生物圏保全性(生物多様性)	世界人口が戦後の75年間で3倍に急増し、自然との接し方を再考しなければ温暖化や多様性の喪失に繋がるという危機意識が足りず、政策待ちの状態にある。政権は経済優先でエネルギー政策も旧態依然としており世界の進化から大きく後れを取っている。
W040	[-]	アジア	日本	企業	30代	1.気候変動	以前は珍しく、起こっても気にしなかった豪雨、巨大台風、冷夏、暖冬が一昨年からは毎年何かしらの形で発生していると意識するようになった。
W041	[-]	アジア	日本	大学研究機関	60代	9.社会、経済と環境	地球環境を改善して行くためには、地球環境を良くして行こうという志と熱意が必須であり、国、企業・組織、市民・個人等のそれぞれのベースでの理想の追求が重要だと思います。
W042	西下 修	アジア	日本	企業	50代	5.水資源 7.食糧	日本に住んでいる限りは水資源をあまり意識しなくてもよいが、世界を見渡した時に今後は水資源が枯渇してくることは明白である。 世界全体で水資源の確保（森林を保つことも含め）をしていく必要がある。 食料に関しても、捨てられている食料が多く多くの資源が無駄になっている一方で飢饉が進んでいる地域もありバランスが良くない。 世界全体で考える必要がある。
W043	[-]	アジア	日本	企業	60代	4.生物化学フロー(環境汚染)	観察されることの中の事例のひとつとして、原発廃棄物処理や放射能汚染記載すべきではないか。
W044	坪内 彰	アジア	日本	大学研究機関	70代以上	1.気候変動 8.ライフスタイル 9.社会、経済と環境	環境問題とくに気候変動への人々の危機意識は明らかに高まりつつあると思う。しかし、政治面では米国大統領に代表される強力な一国主義と経済優先策が、今だ政治的な力に結実できていない環境勢力を凌駕しつつあり、国際協力への道を閉ざしているのではと危惧している。
W045	[-]	アジア	日本	大学研究機関	50代	1.気候変動 4.生物化学フロー(環境汚染)	地球温暖化により、本末琵琶湖で毎年起こっていた全循環は、2019年から2年連続で起こっていなかった。地球温暖化がさらに進行する場合、琵琶湖の全循環は、さらに不利になる。これに伴って、琵琶湖深水域の水質が悪くなることを危惧されている。
W046	[-]	アジア	日本	大学研究機関	60代	1.気候変動 2.生物圏保全性(生物多様性) 3.陸域系の変化(土地利用) 4.生物化学フロー(環境汚染) 5.水資源 7.食糧 8.ライフスタイル 9.社会、経済と環境	SDG'sや気候変動について、意識する人は確実に増えていると思われるが、トランプ大統領のように我関せずのような人もいるのも事実でありいずれにしろ今後も不確実であると思われる。
W048	渋谷 晃太郎	アジア	日本	大学研究機関	60代	1.気候変動 5.水資源 7.食糧	気候変動がますます激しくなると思われる、これに伴って食糧問題や水資源問題が顕在化する恐れが高まっていると思う。

Comments on Q3（自由記述）

No	氏名	居住地域	国名	所属機関種別	年齢	問3 意見に関連する「地球環境の変化を示す項目」	ご意見
W049	平石 尹彦	アジア	日本	大学研究機関	70代以上	1.気候変動 2.生物圏保全性(生物多様性) 5.水資源 9.社会、経済と環境	2015年のパリ協定の締結は良い展開であったが、強制力を持たない、いわば国際的な善意の合意に過ぎないものだった。その後米国で、温暖化の科学を拒否し続けるトランプ大統領が選挙されたことに伴い、先進国の責任というものが雲散霧消した。（EU諸国は対策に前向きなポジションを維持したが、日本は、米国の動きに追従しているような雰囲気がある。）世界最大のGHG排出国である中国は温暖化対策には一応前向きな姿勢を示しているものの、実際のGHG削減ははかばかしく進んでいない。これらの結果、温暖化の進行は停止せず、21世紀末2度という目標は達成されそうもない。このままでは、気象極端現象の頻発、水資源の不安定化、海面上昇などは拡大していき、多くの地域の生態系に深刻な結果をもたらし、これらは、特に、世界中の貧しい人々に深刻な被害を与えることとなろう。
W050	[-]	アジア	日本	大学研究機関	60代	2.生物圏保全性(生物多様性) 3.陸域系の変化(土地利用) 8.ライフスタイル 10.その他	問2の脱炭素とは地球温暖化に関することと思われませんが、CO2による人為的温暖化を前提とした問いには違和感があります。私はCO2濃度と温暖化とはさほど関係はないと考えております。仮にCO2の影響により温暖化が起きているとしたら、脱炭素化が進んでCO2濃度が低くなれば気温は下がることにはなりますが、そのような状態になれば植物の生産量は半減し深刻な食糧問題を引き起こすことになります。実際にはCO2は温暖化に直結していないので、そのようにはならないと思いますが、また、CO2の排出は人間生活のあらゆる面に関係していますので、それを減らすことは経済の停滞をまねきます。確かに技術革新で資源利用のエネルギー効率が高まれば排出量を減らすことができるでしょうが、生産性は現状に近い状態を維持できるかどうか程度で、さらに向上させることはできないと思います。世界人口が今のまま増え続ければ近い将来には100億人を突破するといわれています。一方でCO2と気温の低下で食料生産が低下すれば飢餓問題が発生する可能性が高くなります。食糧危機は国家間紛争や世界的な戦争にも直結する問題となります。 このように、環境問題で最大の課題は人口問題と考えます。現在は新型コロナウイルスのために経済が停滞していますので、CO2排出量は大きく低下していると推測しますが、CO2を減らすということは、現状ではこのような活動停止状態を意味します。CO2温暖化対策のキャンペーンは様々な活動が伴いますので、却ってCO2を増やす結果になると思います。グレンタ・トゥーンベリさんアメリカから帰れなくなってしまうことがいみじくもそのことを示しています。 また、最近の河川の氾濫も気候変動とはあまり関係なく、昔から繰り返されてきたことで、土地利用の仕方による原因があります。本来の川幅は増水による氾濫が起こる範囲であり、広く低地帯を含むものですが、現在は水が流れている部分だけに堤防を築き川幅としてしまっています。先日の高尾19号の多摩川の溢水にとても、二子玉川駅周辺はもともと人が住まない氾濫原で川の一部であったところです。このように土地利用の変化によって生じた水害を、温暖化に起因する異常気象の結果とされてしまっていると考えます。しかし、都市域ではそのようなところでも開発せざるを得ないことが問題でしょう。
W051	[-]	アジア	日本	大学研究機関	60代	1.気候変動 6.人口	異常気象
W052	[-]	アジア	日本	企業	50代	10.その他	地球環境問題としての分類は「その他」になるかも知れませんが、新型コロナウイルスは明らかに人類にとって身近な、そして喫緊の問題となりました。気候変動のように比較的長期的な視野での理解や行動が必要なものもありますが、疫病のように短期で且つグローバルに影響があるものも考慮に入れる必要があるかも知れませんが。
W053	石田 秀輝	アジア	日本	大学研究機関	60代	1.気候変動 2.生物圏保全性(生物多様性) 8.ライフスタイル 10.その他	今我々は過去に経験したことのない2つの限界を迎えている。一つは『地球環境問題』であり、一つは『金融資本主義（グローバル資本主義あるいは自由主義）』。そして、地球環境問題は、間違いなく人間活動の肥大化が原因であり、地球環境問題とは「人間活動の肥大化」なのである。際限のない快適性や利便性を求めた結果ともいえる。今、未来の子供たちへ渡さねばならないバトンは、我慢することなく人間活動の肥大化を停止縮小し、ワクワクドキドキ・心豊かな『暮らし方のかたち（ライフスタイル）』を明らかにし、それに必要なテクノロジーやサービスを提供すること、従来の延長ではない暮らしと資本主義のかたちをつくることだと思う。 すなわち、厳しい地球環境制約の中での豊かさをバックキャスト思考で考え、新しい一歩を踏み出さねば間に合わない。今コロナ禍で、大変な状況であるが、聊か軽率ではあるが、現在のエネルギーや資源の消費量はそれ以前に比べて30%ほど低くなっているはずである。言い換えれば、30%エネルギーや資源の消費が削減された未来の世界を観ているのである。これを、学びの機会にすることも大事だと思う。 地球温暖化、生物多様性の劣化、海洋流出プラスチックなど、どれもが極めて重要な 이슈であるが、各々に対する対処療法的な対応では必ずトレードオフを起こしてしまうことは自明である。もっとも重要なことは、『暮らし方のかたちを変える』ことなのである。
W054	桑原 清	アジア	日本	NGO／NPO	70代以上	9.社会、経済と環境	今は新型コロナウイルス感染症に市民の関心が向いていて環境問題はほとんど忘れられている。経済活動が停滞しているため環境影響は減少の方向だが、感染症が終息した段階で経済活動がどのよう回復するか、それによる環境影響がどうなるかは今は分からない。この問題を契機として、国際協調が重要と考える方向に進むか、人と物の移動を制限する自国第一主義の方向に進むかは分からないが、そのような変化が今後の環境対策の進み方にも影響すると思う。
W056	金子 博	アジア	日本	NGO／NPO	60代	4.生物化学フロー(環境汚染)	マイクロプラスチックの元となっているプラスチック製品について、現政府では代替化に政策の重点が置かれており、プラスチックの製造、使用等の削減に向けての方策が手薄である。
W057	草刈 秀紀	アジア	日本	NGO／NPO	60代	1.気候変動 2.生物圏保全性(生物多様性) 3.陸域系の変化(土地利用) 4.生物化学フロー(環境汚染) 5.水資源 6.人口 7.食糧 8.ライフスタイル 9.社会、経済と環境	新型コロナの問題で気候変動問題は、世界規模で無駄な移動をしなければ削減できると感じている。生物多様性も同様、健全な生態系を取り戻すのであれば、無駄な開発は避けるべきである。また、沿岸・海洋問題は、これから益々深刻さを増すだろう。真剣に向き合うべきである。また、今後の高齢化社会に対して、向き合うべきである。
W058	[-]	アジア	日本	企業	50代	9.社会、経済と環境	SDGsに関する関心が企業人のなかで高まっている。SDGsは環境問題だけではなく、貧困、平等、教育、ジェンダー、水資源など人類の生存・発展に関わる幅広い分野での取り組みを促しており、政府の政策のみならず金融面でのESG投資・企業の情報開示、一般社会の意識改革など広範な大企業だけでなく中小企業を含む人々が参加しつつあると認識している。 環境問題に関していえば、SDGsの取り組みの一部として位置付けて取り組むことによって、問題を多面的にとらえて考えることができるようになり望ましい方向に寄与している。トレードオフになるリスクを多面的・総合的な視点でとらえて検討し、社会全体でより良い取り組みが進むよう祈念している。

Comments on Q3（自由記述）

No	氏名	居住地域	国名	所属機関種別	年齢	問3 意見に関連する「地球環境の変化を示す項目」	ご意見
W059	後藤 敏彦	アジア	日本	NGO／NPO	70代以上	1.気候変動 2.生物圏保全性(生物多様性) 3.陸域系の変化(土地利用) 4.生物化学フロー(環境汚染) 5.水資源 6.人口 7.食糧 8.ライフスタイル 9.社会、経済と環境 10.その他	1900年に16億だった人口は2019年現在77億人に増加、この間の大工業文明の展開により、特に化石資源の多用により気候変動と海洋プラごみに代表される環境汚染を引き起こしてきた。気候変動は不可逆になりかねないtipping point(2℃～3℃上昇との推定もある)が間近に迫ってきている。欧州を中心に2050年にGHGsの排出実質ゼロが法案化されつつある中、日本は余りにも関心がなさすぎる。既に工業化以前の水準から1、1℃以上上昇しており、早ければ2030年には1、5℃上昇推測されている。気候変動はあらゆる事象に影響を与え、食糧を含めすべての事象が危険域に突入しつつあり、正に気候危機(Climatic Crisis)である。これまでのパラダイム「進歩」・「成長」ではなく、持続可能な発展にパラダイム・シフトする必要がある。そのためには脱炭素という経済社会システムの大変換を成し遂げなければならず、当然、我々のライフスタイルの根本的変革も図らねばならない。人口増に対応すべく食糧増産や資源開発のため、特に熱帯雨林等の開発により生物多様性の毀損は甚だしく、窒素汚染も引き起こし、未知のウィスを解き放つことでパンデミックのリスクを増加させてつある。また、環境権という人権の侵害も甚だしい。グローバリゼーションの負の側面として貧富の格差は著しく、もはや人権問題といってよい。こうした問題に対処する必要性にも拘わらず日本政府は利害調整に手取ってか、現状でははかばかしい政策を打ち出していない。特に再生可能エネルギーに関しては系統接続の困難さから普及に急ブレーキがかかりかねない状況にあり、このままでは電力コストが高止まりし、日本産業の海外移転、空洞化の懸念すらある。全ての課題は連動しており、その大元である気候変動はここ10年が勝負所と言われる。政府の動きは期待したいが、それを待つのではなく、企業と市民が積極的に動くことが喫緊の課題である。
W060	堀 雅文	アジア	日本	大学研究機関	60代	6.人口	地球環境問題への意識が低下していると思います。
W061	永野 博	アジア	日本	大学研究機関	70代以上	8.ライフスタイル	この問題は人間がいなければ起きない問題なので、とにかくライフスタイルを変えないことには何も始まらない。昨年の多発した自然災害、大きく報道されている海洋プラスチックごみなどの問題があるにもかかわらず、まわりでライフスタイルを変えなければいけないという運動が起こってこないのは何故だろうか。多分、自分を変えても皆が変えなければ何も変わらないという意識が蔓延しているからだと思う。コロナでの外出規制には少し従う人々もでてきたので、ライフスタイルの転換もコロナ並みとは言わないまでも、大号令をかける必要がある。
W063	[-]	アジア	日本	大学研究機関	60代	7.食糧	日本を含め食糧問題は喫緊の課題である。
W064	[-]	アジア	日本	大学研究機関	60代	1.気候変動	いま、猛威を振るっている新型コロナウイルスや土砂崩壊などの自然災害も元から言えば気候変動とそれを起因とする地球の生態系の崩れとエントロピーの拡大からくるものではないかと推察します。これに対して根本的な理由となる地球温暖化は留まること気配もなく、自然・社会経済・環境のすべての面からみて世紀末的な様相を示しており、われわれのライフスタイルの抜本的な改変が求められていると考えます。
W065	[-]	アジア	日本	大学研究機関	40代	8.ライフスタイル 9.社会、経済と環境	工業化時代のパラダイム（無限の成長、生産・消費・廃棄という循環しないプロセス）とはまったく異なる考え方で環境と経済の問題を考えなければ、地球環境を保全することができない段階になっている。
W067	西 史郎	アジア	日本	企業	60代	1.気候変動 8.ライフスタイル 9.社会、経済と環境	IoTやAI技術の発展により無駄なく効率的に人の移動やモノの生産・流通、エネルギーの利用ができる世界を期待しています。また、5G技術等の発展によりバーチャルリアリティが身近なものになり人の移動も少なくてできると思われる。
W068	川島 洋一	アジア	日本	大学研究機関	50代	8.ライフスタイル 9.社会、経済と環境 10.その他	100年に一度といわれる新型コロナウイルスのパンデミックが、人類の平和な存続を大きく脅かしている。医療技術の問題も重要だが、近代以降のライフスタイルと、それを支える社会の仕組み、すなわち生産、政策、経済などのすべてのあり方が、目に見えない生物により容易に破壊されることに驚きを隠せない。この文脈における現代科学の限界は、モダニズムの限界とパラレルであり、パラダイムシフトによるモダニズムの超克が自然界より課題として突きつけられている。
W069	荒山 裕行	アジア	日本	大学研究機関	60代	1.気候変動	近年の異常気象（100年に一度と言われつつ、恒常化している）の原因について、「地球温暖化」と一言で片付けず、科学的究明と政策的対応が必要であると考える。
W071	[-]	アジア	日本	NGO／NPO	70代以上	1.気候変動	台風、集中豪雨による水害などを経験し、多くの人が気候変動についての関心が高まっていると思う。
W072	三橋 規宏	アジア	日本	大学研究機関	70代以上	1.気候変動 2.生物圏保全性(生物多様性) 9.社会、経済と環境	米トランプ大統領の環境軽視、特に温暖化防止の国際枠組み、パリ協定離脱宣言が国際的な温暖化対策推進に大きな障害になっている。温暖化が引き金になって、昨年はブラジル、オーストラリア、インドネシア、米カリフォルニアなどで大森林火災が発生し、生物多様性が大きく損なわれたのは残念。目下、猛威を振るっている新型コロナウイルスショックが経済活動を停滞させているが、ショックを乗り越えた後、各国が急速な経済回復を急げば、化石燃料消費が急増し、温暖化が加速され、気候変動に深刻な悪影響を与えることが懸念される。
W073	朝岡 幸彦	アジア	日本	大学研究機関	60代	1.気候変動 2.生物圏保全性(生物多様性) 9.社会、経済と環境 10.その他	気候変動問題が最優先課題であることは、ほぼ間違いないと思われる。CO2等の削減は喫緊の課題であり、それに正面から対応しようとする国がある一方で、ほとんど有効な政策を持たない国や逆行する政策をとる国・政権があることが大きな問題となっている。我が国を含めて、こうした国の政策転換がまず求められる。2020年に入ってCOVID-19の世界的なパンデミックが緊急課題となっている。こうした感染症の拡大の背景に、社会のグローバル化とともに地球環境問題の深刻化があることは間違いないだろう。
W074	桜木 祐之	アジア	日本	NGO／NPO	50代	1.気候変動 2.生物圏保全性(生物多様性) 3.陸域系の変化(土地利用) 4.生物化学フロー(環境汚染) 5.水資源 6.人口 7.食糧 8.ライフスタイル 9.社会、経済と環境 10.その他	経済格差が生むプレッシャー、不適切でもそれを更に悪化しないように維持すべく、日々まともに考えられないまま流されながら生きる、暮らす、この逼迫マインドが解消できないと、市民からの底上げには限界があります。経済効率優先で拡大した世界交流がウイルス感染の急拡大にもつながりました。国家中心の発想では限界、思想は世界発想、実生活は地域でこじんまり、大きなパラダイムシフトの最後のチャンスと思います。
W075	楠田 哲也	アジア	日本	大学研究機関	70代以上	1.気候変動 2.生物圏保全性(生物多様性) 3.陸域系の変化(土地利用) 4.生物化学フロー(環境汚染) 8.ライフスタイル	持続型社会の様相についてほとんど議論がなされず、持続可能社会に向けての途中のプロセスについてのみの議論に終始している。世代間倫理が機能するのをある有限期間とすると、単に長い短いだけの問題に矮小化すると現在の地球環境に関する努力は空しいことになる。
W076	押谷 一	アジア	日本	大学研究機関	60代	8.ライフスタイル 9.社会、経済と環境	これほどまでに環境が悪化しているのは資本主義経済が進展しているためであり、環境対策が進まないのは経済合理性が優先されていからである。今後は一人ひとりの意識、ライフスタイルが改善されることによって、政策や企業の姿勢が改められていかなければならない。一方、SDGsに示されているように環境悪化は特に弱者に対する影響が大きい。しかも、だれもがいつ弱者（気候変動による自然災害、あるいは経済の悪化による）になる可能性があるの、適応策としてさまざまなセーフティ・ネットの構築が必要である。
W077	[-]	アジア	日本	大学研究機関	60代	10.その他	現在世界中が新型コロナウイルスにより社会活動が止まっている。感染者数の多い国とそうでない国との差がはっきりと出ている。医療に予算を割いてこなかった国が、莫大な予算を使って感染を止めようとしているが、その効果が見えない。いつ止まるだろうが、止まったときには、人の命が失われるとともに文化活動家や、多くの中小企業が潰れてしまっているだろう。全く違った世界になりそうな気がする。

Comments on Q3（自由記述）

No	氏名	居住地域	国名	所属機関種別	年齢	問3 意見に関連する「地球環境の変化を示す項目」	ご意見
W080	永津 龍一	アジア	日本	その他	60代	1.気候変動 9.社会、経済と環境	最大の環境問題である気候変動問題を含め、その緩和のための政策がここ数年、全く進展していない。今年11月のアメリカ合衆国大統領選を注視せざるを得ない。
W082	大林 ミカ	アジア	日本	NGO／NPO	50代	1.気候変動 2.生物圏保全性(生物多様性) 5.水資源 9.社会、経済と環境	気候変動など、経済への好ましい影響を与える環境対策については、衆目を集めやすいが、生態系の保存や水資源の保全など、地域レベルでの環境対策が必要な分野については、人材不足、知識不足、古くからの慣習を変えられないなど、対策が遅々として進まない。特に、生物多様性の問題については、非常な緊急性を伴うものであるのに、まったく政策も対策も進まないことに大きな危機感を抱く。
W083	尾崎 保夫	アジア	日本	大学研究機関	70代以上	8.ライフスタイル	現状を認識し、各自がエネルギーや資源の循環利用にできることから積極的に取り組むことが大切。
W084	寺本 佳生	アジア	日本	NGO／NPO	60代	8.ライフスタイル 9.社会、経済と環境	グレタ氏という特異なキャラクターを持つ人物が登場し、環境問題をテーマとした世代間の対立構造を促進されるような風潮が生まれた。ライフスタイルや各種政策施策が後退する傾向が生まれた。これは地球環境に対する重大なマイナス変化と考えます。
W086	[-]	アジア	日本	企業	30代	1.気候変動 4.生物化学フロー(環境汚染) 9.社会、経済と環境	先進国と新興国でその時代による1・2・3次産業の比率が異なるため、地球規模でのCO2等の削減目標に対し、各国における削減目標を義務付けるのがフェアだと思うが、数値目標をどこが決め、どの国も納得できる値を決めることは極めて難しい問題である。しかし、新興国を含めこれを行っていかないと環境問題は良くなりませんと感じる。
W088	渡邊 泉	アジア	日本	大学研究機関	40代	4.生物化学フロー(環境汚染) 7.食糧 8.ライフスタイル 9.社会、経済と環境	本当は専門である化学物質による環境汚染（プラスチック問題も含めて）で書きたかったが、現在の新型コロナの状況で、様々なものが変化している。かなりの変化を強いられると予想され「このような形で世界が変わるとは」予想できなかったし、予断を許さない。政治の、より積極的な関与が期待されるが、この問題においても政府の態度は「？」がつく。いわずや環境汚染、化学物質の管理、をや、であり、社会の認識も良い方へ向かう気配もなく、危機感している。
W089	[-]	アジア	日本	地方自治体	60代	1.気候変動	新型コロナウィルス問題は、国境は関係なく世界は一つであり、我々は全て地球市民であることを示した。新型コロナウィルスは、ワクチンが開発されれば鎮静化しうが、気候変動(地球温暖化)は臨界点を超えれば処方箋はない。 新型コロナウィルス問題に遭遇したことを踏まえ、地球上の全ての人がSDGsに則りジブングトとして、脱炭素社会に向けた取組を進めることを願う。
W090	小見 邦雄	アジア	日本	その他	70代以上	1.気候変動	地球環境の変化に関しては、世界中の人達がある程度認識し出しているように思われます。 その背景としてはやはり異常気象による災害を実経験する人の増加があるのではないかと感じています。
W092	森嶋 彰	アジア	日本	NGO／NPO	70代以上	9.社会、経済と環境	日本は公害問題や原発事故で多くの犠牲を払ってきました。にもかかわらず政策や企業行動は未だに経済優先に基調をおいている。この経験で私たちは経済成長を求めるだけで豊かで幸せな人生が得られる訳ではないことを学んだはずである。限りある資源を使い続ける経済成長優先の社会は、資源の枯渇という問題だけでなく、人間社会の問題も引き起こしているということを改めて振り返るべきである。日本は他の国にない厳しい経験をしているのだから経済成長だけを基調にしないで繁栄と幸せを求める国づくりのモデルになるべきと思う。未だに石炭火力発電を追い求めているようでは日本は3流国になると思う。
W093	川村 研治	アジア	日本	NGO／NPO	60代	1.気候変動 2.生物圏保全性(生物多様性) 3.陸域系の変化(土地利用) 6.人口 7.食糧 9.社会、経済と環境	気候変動に伴う自然災害が思いのほか急速に進んでいる。海水温の上昇による豪雨や台風の凶暴化、乾燥が進んだ地域での森林火災、永久凍土の融解によるメタンガス発生と火災など直接的・間接的気候変動の悪影響であることは確実と言える。 さらに、海水温の上昇やメタンガス発生が温室効果ガスの大気への放出を加速し、正のフィードバックが働く可能性が高まっている。 今後も世界規模で見ると人口急増の傾向は当面続く、また、サブサハラ地域の経済開発のため発電施設や道路建設が進むことを考えると、温室効果ガスが低減する可能性は低い。画期的な技術革新が起こる可能性はあるが、CSS、CSU、核融合等の言葉はあるが具体化するかどうか不透明である。CSS・Uは技術的には可能かもしれないが、炭素税等の政策パッケージとして実施しなければならない。パリ協定に基づく各国の中長期戦略の着実な具体化と、グローバルな協調が不可欠であるにもかかわらず、COPの合意さえ難しい状況が続いている。地球環境問題の解決はさらに困難の度を増しているとの認識をもっている。
W095	[-]	アジア	日本	大学研究機関	50代	9.社会、経済と環境 10.その他	covid-19の爆発的感染の最中にある今、環境問題とか、社会の安心安全とか、国際協調とかを巡るこれまでの議論は、いつの間にか視座が固定化されてしまっていたのかな、と感じる。テレワークにあたふたする会社や年配者を尻目に、若い人たちはさっさと距離も時間も超えたネット空間で活動し始めている。彼らの目から見れば、外出自粛もソーシャル・ディスタンスも買占めも、今までの生活を変えられない年寄りの行動なのだろう。「Society5.0」の実現が環境問題対策の伸展や方向性を決める大きな要因と考えているが、その「Society5.0」で描かれるビジョンは、時間や距離を障害と思わないで思考できる若い人たちに描いて欲しいと強く思う。
W096	[-]	アジア	日本	大学研究機関	40代	4.生物化学フロー(環境汚染)	海洋ごみ問題への対策がようやく進展し始めたが、一過性で終わらないようにすることが重要であると思われる。
W097	宗宮 弘明	アジア	日本	大学研究機関	70代以上	1.気候変動 2.生物圏保全性(生物多様性) 3.陸域系の変化(土地利用) 4.生物化学フロー(環境汚染)	現在、世界はコロナウイルスによるパンデミックの最中である。色々な対策が、出されているが、今回のパンデミックの本当の原因は、過度な環境破壊だと私は思っている。この環境破壊に思いを巡らして、具体的な対策を打たない限り、豊かで、安心、安全な社会は形成できないと思っている。持続可能な社会とは、次の世代がのびのびと成長できる世界を作ることだと思っている。それは、人間が知恵を出し合って作れないものだ。気候変動、生物多様性の喪失、海のプラスチック汚染など、次の世代に負の遺産を残さないようにすることが、現在世代の務めだと思う。残りの人生を、社会の改善に捧げようと思って小さな実践を試みているげんざいである。貴財団の活躍も期待している。
W100	[-]	アジア	日本	その他	70代以上	1.気候変動 5.水資源 9.社会、経済と環境	日本では、地球環境に関して、一般の人々の関心は深まってきているとは言えないだろう。 10年前くらいの方が、環境の報道が多くて、意識も高かったように思う。 温暖化一つとっても、産業界では石炭発電を進め、政府も黙認している。 水資源の改善・保全もおぼつかないし、環境を念頭に置いた政策の推進もあまり見られないと思う。 メディアがもっと環境を取り上げないと、人々の意識を環境保全・改善へと向けさせるのは難しい感じがする。
W101	庄田 佳保里	アジア	日本	NGO／NPO	40代	8.ライフスタイル	多様な災害により社会が急速に変化し、それに伴い生活様式も変化する事態に遭遇する中で、いかに持続可能性の高いライフスタイルへとシフトできるかが今問われていると感じています。
W102	[-]	アジア	日本	ジャーナリズム	50代	10.その他	日本人、特に政治家には、環境問題のような大きな流れを俯瞰する能力がない。 ダメになってから初めて慌て始める。 外圧に期待するしかない。

Comments on Q3（自由記述）

No	氏名	居住地域	国名	所属機関種別	年齢	問3 意見に関連する「地球環境の変化を示す項目」	ご意見
W104	鈴木 克徳	アジア	日本	NGO／NPO	60代	1.気候変動 2.生物圏保全性(生物多様性) 5.水資源	今回のCOVID-19問題を契機として、世界経済と人々のライフスタイルは激変しつつあります。このような問題は、これまでも指摘はされていましたが、誰しも真剣にはとらえてこなかったと思います。この問題を持続可能な社会づくりとどう関連させるのがキーだと考えます。この問題を契機に、人々の持続可能でレジリエントな社会に関する認識とライフスタイルを変革できるかどうか、企業倫理を大きく変えられるかどうかが問われていると考えます。一部に、COVID-19ゆえに気候変動問題への関心が下がっているとの意見がありますが、逆でなければいけないと思います。COVID-19を、気候変動問題を含む持続可能でレジリエントな社会とは何かをすべての人が考え直すためのまたとないチャンスとして活かせるよう期待します。 また、COVID-19は、世界が協調して持続可能な社会づくりに取り組みるかどうかの試金石であるとも考えます。互いの国をのりし合うのではなく、今後最も困難に直面するであろうアフリカ等の国々に対する支援を如何に迅速に行えるかは、気候変動問題や水問題を含む将来の危機に直面した際に大きな教訓になると思います。
W105	鈴木 道彦	アジア	日本	NGO／NPO	70代以上	1.気候変動 9.社会、経済と環境	今、改めてリスク評価の重要性を見直す時期と考えます。大型台風、洪水、地震、津波、山火事、エボラ出血熱、新型コロナウイルス、リーマンショック、戦争など予測を超えた危機が最近は頻繁に起こっています。利益を優先した経済活動を見なおす良い機会でしょう。その原因は気候変動、生態系の急激な変化などに起因している場合が多いと思われ、新しい社会、新しい生活スタイルを築く必要があるのではないのでしょうか。歴史に学び、これらのリスク評価の研究が広く進むことを望みます。
W107	[-]	アジア	日本	大学研究機関	70代以上	2.生物圏保全性(生物多様性) 3.陸域系の変化(土地利用) 4.生物化学フロー(環境汚染) 9.社会、経済と環境	環境問題や社会問題に対する国際協調・協力が低減してきており、効果的な解決策がとられていない。新型コロナウイルス感染症対策も同様であり、One Healthアプローチ・原則に基づいた国際協調・協力なしには、今後も避けられない、類似の動物由来の感染症に対応できない。
W108	[-]	アジア	日本	その他	40代	1.気候変動 2.生物圏保全性(生物多様性) 4.生物化学フロー(環境汚染) 7.食糧 8.ライフスタイル 9.社会、経済と環境 10.その他	近年は大型台風や豪雨での災害が毎年のように起きており、これは地球温暖化が進んでいることも一つの要因と考えられ、温室効果ガス削減に向けての意識は、マイクロプラスチック問題等も相まって世界的にもバイオマスプラスチック等、プラスチック代替素材の活用が進んできています。また、エネルギー利用においても、化石由来のエネルギーから、再生可能エネルギーの活用への更なる期待と導入が進んできていますが、導入にあたっての費用や時間等の課題があり、大幅に導入が進んでいない現実があります。 今般の新型コロナウイルス感染症の拡大防止に向けては、人命に直結する事案であることから、世界的にも各国が緊急事態宣言を出して、感染拡大防止に努めています。この地球温暖化は、大型台風、豪雨災害、海が温上昇等で住めなくなる地域、食料生産に影響すること等にも繋がることから、もっと世界全体で対策をとっていく必要があり、今般の新型コロナウイルス感染症の拡大防止の取組の教訓を温暖化対策にも活かしていただきたいと思います。
W109	[-]	アジア	日本	その他	70代以上	1.気候変動 2.生物圏保全性(生物多様性) 3.陸域系の変化(土地利用) 6.人口	2017年来既述した弊意見(下記引用)の諸現象が全く改善されず悪化が進行しており、加えて世界的喫緊課題であるプラスチック使用・廃棄、及び気候変動・パリ協定国家目標見直しに対し国家として極めて消極的な取組姿勢を表明している事に一層危機感が募る。更に生態系破壊が遠因と考えられているコロナウィルス禍蔓延の影響を懸念。 ***** 現自民党政権の環境保全を軽視し経済発展を優先させる施政方針が依然として変わらぬ事、及び其れに迎合するマスメディアに危機感を覚える。例えば ・使用済燃料の処理策が決まらぬ儘?原子力発電を再開継続 ・補充発電として石炭火力を推進 ・資源エネルギー多消費型観光産業推進の称揚 ・資源過剰消費を顧みないグルメ云々等の食習慣の喧伝 ・首都圏の乱開発と人口集中の再発進行(更に2018より東京オリンピック誘致が之を加速) 等々 之に加えて、米国トランプ政権の近視眼的経済活性化のみを重視し(異常気象の多発、サンゴ白化の世界的拡大、北極海開水面の急速拡大等々に見られる)気候変動などの環境危機問題を無視する諸政策推進に戦慄を覚えている。
W110	[-]	アジア	日本	企業	50代	9.社会、経済と環境	地球環境問題を考える場合、「全世界の地球規模」「国単位のそれぞれの風土に合わせた環境意識や対策」「個々人が共感して行動する」3つの段階があると思いますが、すべてにおいて足並みがそろわず、真逆の意見行動さえある。企業も個人も「このままでは大変なことになる」と思っている、行動力は弱く少なく、推進力にはなっていない。人々の意識を動かすには、大きなムーブメントや強力なトップダウンの政策が必要だと思います。私の立場知識では、気候変動やその他の項目については危機感をもつしかなく、なすすべは有りませんが、問題解決に向かうには、やはり人が主体的に進めていく（9）が重要と考えます。環境が悪化してしまうと、いかなる経済活動も無意味になってしまうのに、あまりにも軽視されている実情があります。 美しい空気や水、土を作るための自然を取り戻すためには長い時間を要しますが、即物的に目の前の事しか考えに至らず後回し。見なかったことにする感があります。世界全体は横につながっている。自然は人の寿命よりも長く縦に続いていく。と、会ったことのない他国の人、会ったことのない過去と未来の人間に対して、想像力をもって大きな力で推進していかなければいけないと思います。 自然災害の多い日本。国には災害の後の支援ばかりを見ず、災害を起こさない健全な国土を作ることに政策を広げてほしいし、優秀な企業も、個々の会社やグループで完結せず日本全土を見据えた団結で、力も資金も活用してほしいと思っています。
W111	内田 啓一	アジア	日本	その他	70代以上	1.気候変動 2.生物圏保全性(生物多様性) 8.ライフスタイル	今回の新型コロナウイルスの騒動で改めて人類の置かれている状況を認識できると思う。人類は生物の頂点に立ち自分たちの思うようにふるまうことができ、自然も自分たちの都合の良いように改変できると思いがっている。今回のような感染症パンデミックは初めての経験ではないが、科学技術が以前とは比べものにならないほど進展している現在でも、人間の活動は大きな影響を受けている。人類はもっと謙虚にならねばならないでしょう。大きな自然の中の一員だということを改めて認識する必要がある。人類の都合の良いように自然環境を改変したり、地球資源を不必要に消費することを前提とする発展をもう一度考え直す時期にきている。気候変動問題、生物多様性問題、環境汚染問題などは人類の活動増加がもたらしたものであり、それに対応するには我々のマインド、ライフスタイルを変える必要があらう。今回の新型ウィルス感染は今後の我々の行動を考え直す良い機会を提示してくれた。
W113	西崎 柱造	アジア	日本	その他	70代以上	5.水資源 6.人口 7.食糧	希望的観測を含め、今後、全地球的に民主化が進んでいくと考えています。その際、我々は現段階では、民主国家として人口を制御する有効な手立てを持ち合わせていません。 一国の人口が極端に増えていくか、あるいは減っていくか、これは全地球的に考えて大きな問題になると考えます。 食料→水資源と問題はどんどん広がっていきます。

Comments on Q3（自由記述）

No	氏名	居住地域	国名	所属機関種別	年齢	問3 意見に関連する「地球環境の変化を示す項目」	ご意見
W114	岡田 泰幸	アジア	日本	NGO／NPO	70代以上	1.気候変動 8.ライフスタイル 9.社会、経済と環境	世界はいまコロナ感染の猛威に晒され、対策に努めている。コロナは国境を越え、先進国、発途国の別なく拡大しているが、地球温暖化による異常気象も世界に大きな影響を与えつつある。コロナ対策も温暖化対策も、各国は国際的な協調が不可欠である。今年11月に英国で開催予定だったCOP26は来年に延期された。パリ協定では今世紀末の世界の平均気温を産業革命前比2度未満、できれば1.5度に抑えることを目標に、各国に従来より大幅に上回るGHG削減目標提出を求めている。これに対してEUは、1990年比2030年度40％減の従来目標を50～55％に引き上げる調整中であるが、日本は早々に2030年度に13年度比26％減という低い従来目標を変えずに提出し、各国から日本への強い失望が出ている。来年のCOP26に向けて、日本は年内に見直す温暖化対策計画で思い切った目標を掲げてエネルギー基本計画を改正し、再エネ増と化石燃料エネ低減の強化により、新しい意欲的なGHG削減目標を提出してほしい。パリ協定から一方的に離脱した米国は論外であるが、日本はEUと歩調を合わせて、世界の温暖化阻止を牽引すべきである。いまコロナ感染症は、世界の経済に甚大な悪影響を与えて景気が大幅に悪化し、コロナ克服と経済活動再開は大きな課題であるが、コロナ鎮静化に伴い再開される経済は、単なる従来型経済への回帰であってはならない。これを天与の機会として、我々は従来の化石燃料大量消費、GHG排出型経済から脱皮し、再エネ利用拡大とGHG排出大幅抑制により、温暖化阻止を目指す新しい経済への大転換を期すべきである。そのためには、広く消費、生産、生活様式までを含む人間社会の在り方全体の検討が必要であり、現在既に国際社会が申し合わせているSDG s 17目標の実現への努力が不可欠である。私は従来から温暖化阻止を考える際に、軍事部門のGHG排出把握と削減を聖域にしているのはおかしいと主張してきた。世界の軍事部門が排出するGHGは、平時もかなり膨大であり、戦時には兵器弾薬使用や都市、森林、油田等構築物の破壊炎上で飛躍的に増大する。世界各国はSDG sの一環として、軍事部門のGHG排出量把握と削減を共通の検討項目に加えていく必要がある。コロナ感染症と地球温暖化は、21世紀人類が等しく直面する共通の敵であり、この際日本は各国との協調により克服していく必要がある。
W115	[-]	アジア	日本	大学研究機関	60代	8.ライフスタイル 9.社会、経済と環境	COVID-19 対策によって、社会はライフスタイルの一大転換を求められている。感染症対策としての個人やコミュニティ、社会、経済、政策対応の変化はかなり急激であり、これによってICT、バーバーレス、交通渋滞の緩和等、より環境に負荷のかからないライフスタイルが進んでいる。
W116	[-]	アジア	日本	NGO／NPO	70代以上	2.生物圏保全性(生物多様性)	貴重な生物が商品として取り付記されることをもって制限すべきではないか。 生物多様性の維持や、生命の大切さをいながら、一方ではベットとして飼育したりしている。 個人的な趣味で飼育することと、環境維持という世界の課題とが離れているのではないだろうか。
W117	佐藤 孝則	アジア	日本	NGO／NPO	60代	1.気候変動 2.生物圏保全性(生物多様性) 5.水資源	「今日、地球のあちこちで起きているほとんどの環境問題、私たち人間や人間社会がつくり出した科学技術による「負の側面」と考えることができる。それは、私たち人間の利己的な生産・消費活動による結果であり、私たち人間の「負の心」を世界に映し出した結果、と考えることもできる。換言すると、地球環境問題は、私たち人間の「負の心」がこの世界に反映された姿そのものではないかと考える。まさに「世界は鏡」である。その典型的な結果が、地球温暖化問題であり、生物多様性の喪失、良質な水資源の枯渇などである。環境問題は、地域的（ローカル）であるとともに地球的（グローバル）問題でもある。一方で、両者は不可分で相互連関の関係にある。いわば、硬貨の表裏という両面性をもっている。実際、環境問題は地域的であるとともに地球的な問題である。それゆえ、今日においては、グローバルとローカルのそれぞれを併せ持つ考え方、すなわちグローバル（「二つ一つ」）の視点が重要ではないかと考える。身近なプラスチックごみの問題は海洋のマイクロプラスチック問題と関連し、海洋資源の枯渇は周辺河川上流域の森林伐採と関連していることも、「二つ一つ」の視点で考えることができる。 いずれにせよ、今日の地球環境問題を改善させるさいに必要なことは、私たちの行動判断に潜む「負の心」をどのように「正の心」、すなわち他者を思いやる利他的行動へとシフトさせることができるかである。もちろん「他者」の中には、人間（人類）以外の生き物たちの存在も忘れてはいけない。進化的にみれば、彼らは私たち人類とは兄弟姉妹の関係にあるのである。私は、30年以上にわたって北海道の釧路湿原で小型サンショウウオの生態研究をおこなってきた。ちょうど調査は20世紀から21世紀へと跨いでいた。20世紀における彼らの活動時期をみると、越冬準備に入る10月が限界だったが、21世紀になると11月まで伸び、活動期間がほぼ1ヵ月間伸びる結果になった。これは、釧路湿原の気温が地球温暖化の影響によって上昇していたことを示す証左だと考えている。身近な小動物の活動が人間がもたらした今日の気候変動による地球温暖化現象によって影響を受けている事実は、まさに「グローバル」に考え、「地球は鏡」の視点で行動しなければならないことを、私たちに警告しているのではないかと考えている。
W118	[-]	アジア	日本	大学研究機関	60代	1.気候変動 4.生物化学フロア(環境汚染) 8.ライフスタイル	気候変動、環境汚染などは私たちが感じる以上に深刻さを増していると思います。二酸化炭素濃度の観測データを例にとれば、状況は改善されどところか毎年上昇しています。産業、家庭、業務においては新たなパラダイムが必要であると思います。社会全体で真剣に取り組まなければ解決できる問題ではなく、国民意識の変化、厳格な規則の必要性を感じます。
W119	[-]	アジア	日本	NGO／NPO	60代	6.人口	地球を追い込む最大の原因は人口増加である。日本のように人口のピークアウトを経験しつつある国の声をそろえて、警告を発し、関連の運動につなげていくことが必要だ
W120	[-]	アジア	日本	大学研究機関	40代	1.気候変動 5.水資源	つい数年前は地球温暖化がキーワードとして使われていたが、近年になり気候変動へ言葉が置き換わっているように見受けられる。様々な理由があるとは思われるが、最も大きいところは、地球が当初の推定程温暖化していないということではないだろうか。その反面地球規模の気候変動は確実に起こっている。この気候変動については、二酸化炭素原因説もあるが私自身は仮想水の移動に伴う水資源の移動が原因であると考えている。このように様々な要因が考えられるものの、環境活動がビジネス化し、正しい情報や議論よりもより多くの資金を得られるものが表舞台に出てくることから、地球環境についてほとんど改善の兆しはないと考える。むしろ間違った知識による弊害も多いのではないだろうか。
W124	[-]	アジア	日本	大学研究機関	60代	1.気候変動	この分野は早急な対応をしなければならないのに、なかなか抜本的な改善につながらない。温暖化交渉を止めているセクターはいったいどこなのでしょう？環境教育が重要といっても、なかなかこの分野で成果が出ないので、困惑しています。
W125	[-]	アジア	日本	大学研究機関	60代	9.社会、経済と環境 10.その他	特にエネルギー政策について、日本ではあまりにも貧弱な取り組みしかできていません。日本のような地震・火山災害の多い国で「安全を担保しながら原子力に依存する」など、荒唐無稽に思います。たとえば、九州の阿蘇山が9万年前と同様の噴火をしたら、どうなるか想像してみるとよくわかります。多くの原子力発電所は制御不能になります。もっとも、この場合には、原子力発電所事故の影響がなくても1億人程度の日本人が死滅するのでしょうか、「原子力発電所が制御不能になり、破滅的爆発を起こしたとしても、どうせ日本という国はなくなるから、どうでもいい」と判断しているのでしょうか？
W126	[-]	アジア	日本	NGO／NPO	50代	9.社会、経済と環境	地域の自然が保全され、経済が循環する仕組みを、政策で進めるだけでなく一般の人が理解するような教育、企業等の意識改革により進めるべきである。
W127	[-]	アジア	日本	ジャーナリズム	60代	2.生物圏保全性(生物多様性) 6.人口 7.食糧	地球環境問題の最大の課題は、人口問題である。人口を減らさなくては地球の将来がないにもかかわらず、どの国も減らす努力をしていない。保健医療の充実も、高齢化に拍車をかけており、人類はこれ以上の医療技術の進歩は、自らを衰退に追いやるのではないか。
W128	岡田 尚憲	アジア	日本	その他	60代	9.社会、経済と環境	今回のような新型コロナウイルス感染症問題のように、我が身に直接影響するような問題が起こった時には急に敏感になり、マスコミも騒ぎ出すが、常にアンテナを広げていると、起こりえるべきで起こった事象であることがわかる。もう少し冷静に流れを読み取る力を養わなければならないと感じます。
W129	[-]	アジア	日本	大学研究機関	60代	1.気候変動	発展途上の国々で人口が増加し、生活水準の向上を望む限り、温室効果ガスの排出量の減少を望むことはできない。COVID-19の流行によりこの勢いはやや減少するがその傾向を変えることは困難である。
W130	天野 正博	アジア	日本	大学研究機関	70代以上	1.気候変動	現在の社会は新型コロナウイルスの感染拡大の阻止が最重点課題と位置づけている。ただ、その取り組みにおいて若者世代と高齢者世代には、気候変動問題と同様に世代間の差異を埋めるような姿勢が不十分である。また、人や物資の移動がグローバル化した今日、新型コロナウイルスへの対応には世界全体での取り組みが求められており、気候変動と同様に国際機関のリーダーシップと各国の協調が不可欠である。 こうしたことから、新型コロナウィルス問題を契機に地球規模での問題への対処においては、国ではなく市民社会がリーダーシップを取る人間の安全保障の概念によるガバナンス構築の機会とすべきである。
W132	[-]	アジア	日本	大学研究機関	50代	1.気候変動	温暖化への対応の一つとして、バイオマスを用いた物質生産の促進が必要であり、実用化に向けた研究支援が必要である。特に石油ではなくバイオマスを利用した生分解プラスチックの普及を政策や法改訂を通して急ぐ必要がある。

Comments on Q3（自由記述）

No	氏名	居住地域	国名	所属機関種別	年齢	問3 意見に関連する「地球環境の変化を示す項目」	ご意見
W133	[-]	アジア	日本	中央政府	40代	1.気候変動 2.生物圏保全性(生物多様性) 3.陸域系の変化(土地利用) 4.生物化学フロー(環境汚染)	海洋プラスチックごみ問題については昨年のG20でも大きく取り上げられ、欧州、アフリカ、日本でも取り組みが本格化してきた点は近年稀にみる成果であったが、新型コロナウイルス禍の長期化によって人々の価値観が変わり、環境よりも安全を重視することから、逆にプラスチックを多用する流れとなっているのは致し方ないとはいえ、残念である。ただし、プラスチックが悪ではなく、その管理を徹底することが重要であるので、引き続き官民を挙げて、出来るところから取り組んでいく必要があると考える。
W134	[-]	アジア	日本	大学研究機関	60代	1.気候変動	異常気象の問題は、現在の感染症とのダブルパンチになれば、とんでもない危機になる。
W135	中尾 文子	アジア	日本	中央政府	50代	1.気候変動 2.生物圏保全性(生物多様性) 3.陸域系の変化(土地利用) 8.ライフスタイル 9.社会、経済と環境	新型コロナウイルスで社会・経済活動が沈滞化する一方、CO2の排出量が減り人の介入で悪影響を受けていた原生的な自然地域では野生生物の活動が活発化している。新型コロナウイルスの集束後も、人間の活動による環境影響の低減状態が維持されるような、社会・経済活動のあり方を模索していく必要があると思っています。
W136	[-]	アジア	日本	その他	40代	9.社会、経済と環境	新型コロナウイルス感染症の拡大により一時的に停止した経済活動が、どのような新しい様式で再開されるのか不透明なため、地球環境への影響も現時点では予測することが難しい。
W137	井口 恵一郎	アジア	日本	大学研究機関	60代	1.気候変動 2.生物圏保全性(生物多様性)	気候変動による地球温暖化は、実際に、日本の生物多様性（とりわけ低緯度地方）にマイナスの影響を及ぼしているところです。生物多様性の劣化がもたらす未来像を一般の方々の間で共有していないため、危機意識が低いように見受けられます。保全は、国民がそれぞれの立場で行うべきものと考えますので、この現状は好ましくないと憂慮する次第です。
W138	東 雄一	アジア	日本	その他	60代	1.気候変動	国連ではSDGsに定められたような具体的な目標をかけた行動指針が示されているが、世界各国・各地域での取り組みの温度差が大きい。特に気候変動は喫緊の課題であるにも関わらず、認識が一致せず、具体的な対応議論ができないような状況が長く続いているので、自国の利権を優先しない新たな枠組みを作って推進するような取り組みが必要である。
W139	青藤 隆	アジア	日本	大学研究機関	60代	6.人口 8.ライフスタイル	環境への負荷は人口×消費で決まります。先進国ではライフスタイルの見直し、発展途上国では人口問題への対応が重要だと考えます。
W140	吉田 薫	アジア	日本	ジャーナリズム	60代	7.食糧 8.ライフスタイル	鉱物資源の持続可能性が重要だと思う。食糧は十分足りている。
W141	[-]	アジア	日本	大学研究機関	70代以上	6.人口	日本は人口減少が続いているが、政府が最終的に日本の人口をどの程度にすることを期待しているのかが不明確である。少子化対策と言いながら、現実的にとられている政策は、少子化促進である。日本の明晰を勘案した適正人口を考える時期に来ている。
W142	[-]	アジア	日本	大学研究機関	50代	1.気候変動	2050年脱炭素社会への具体的な道筋が描けていない。シェアリングエコノミーの進展など新しい動きは見られるものの、制度的政策的対応が遅れている。コロナウイルス対応で脱炭素への関心自体が薄れてきていることも気がかりである。
W143	[-]	アジア	日本	大学研究機関	40代	1.気候変動 9.社会、経済と環境	気候変動に関しては、相変わらず経済優先の政策ばかりで効果的な環境配慮の政策がほとんど実効していない。大胆な社会システムの変革を政治から発信することで国民や企業、自治体の意識が変わる（新型コロナウイルスの感染防止対策のように）と考えられる。消費者や若者の一部からは変化の兆しがあると思うが、大きなうねりとなるまでにはもう少し時間がかかりそうに思われる。
W144	[-]	アジア	日本	企業	60代	1.気候変動 2.生物圏保全性(生物多様性) 9.社会、経済と環境	国連を中心とした、地球環境問題に対する推進力が弱まっているように感じる。各国の官民合わせて人材・知見を集中して、政策を推進する、ベクトルが一致せず、熱意・パワーが減じているように感じる。感染症の拡大はこうした、国際協力にプラスに働くことを期待する。特に、アジア・アフリカ・中南米においては、従来から貧困・飢えからの脱却が、それらの地域での地球環境問題に好影響をもたらすことが認識されてきたが、感染症の拡大の中で、衛生状態の悪化がさらに進行しており、地球環境問題どころではない現状がさらに悪化していくことを危惧している。
W145	井手 慎司	アジア	日本	大学研究機関	60代	8.ライフスタイル	アフターコロナ時代における、ライフスタイルの変容が気になります。より良い方向に向かうことを期待したいですが、
W146	[-]	アジア	日本	大学研究機関	60代	1.気候変動	気候変動が確実に起こっているものの、それへの対応が極めて遅い。理由の一端は炭素社会と明確であるものの、それへの対応が確実なものにはなっていない。
W147	[-]	アジア	日本	大学研究機関	50代	1.気候変動 9.社会、経済と環境	日本の産業界が、抜本的な政策（カーボンプライシング）導入に、合理的ではない反対をしていることが、日本及び世界にとって不幸である。今や中国やASEAN諸国でも政策を導入あるいは検討しているのに、常に、「自分達だけ政策導入するのは不公平だ」というのが残念である。
W148	[-]	アジア	日本	その他	60代	1.気候変動	気候変動への対応は待たない状況にあるが、国や経済界は総論賛成、各論は踏み込めない状況が続いている。象徴的なことは、石炭火力の廃止に向けた取り組みが遅々として進まないこと。将来の世代につけを回すことは、もはや許されない。
W149	北辻 政文	アジア	日本	大学研究機関	50代	1.気候変動	日本においては、ゲリラ豪雨をはじめとする異常気象が多発し、未曾有の災害が増えている。
W150	[-]	アジア	日本	NGO／NPO	60代	10.その他	新型コロナウイルスによって、経済活動の停滞が現出し、結果的に温暖化などが一時的であれ改善されたり、緊急事態によるライフスタイルの変革が余儀なく浸透しています。差し迫った脅威であっても、そうとは認識せず、むしろ経済活動をむしろ優先させる国の指導者もあつたりしています。この両極を眼前人見ていると、地球環境問題の改善の困難さを感じずにはおれません。
W152	[-]	アジア	日本	大学研究機関	50代	1.気候変動	温暖化問題が国際的な競争の道具になりつつある、
W154	宮守 圭一	アジア	日本	企業	40代	1.気候変動 6.人口	私が地球環境の変化を示す課題で最も危惧しているのは、2050年には98億人を超える予測されている人口の爆発的な増加です。現在の地球環境問題の最大のテーマである気候変動は、新型コロナウイルスの発生により、対応後の世界のシミュレーションが一部実現されつつあります。この経験を通じて、気候変動についてはポジティブな方向に進むことに少し期待が持てるようになってきました。次に、人口爆発に対してどのような手が打てるのか。気候変動と同時に進めていけたらいいと考えます。
W155	[-]	アジア	日本	企業	50代	10.その他	新型コロナウイルスのパンデミックが世界中のライフスタイルを変化させていると思います。このアンケートでも最初の設問で、コロナウィルスの事をどのカテゴリーにすべきか迷いました。結局当てはまる事項として相当数の方が亡くなったので人口にしましたが、今後の世界的な行動指針に、人同士の接触・交流・コミュニケーションを変えざるを得ない新たな条件が加わったと感じます。より良い世界を築くチャンスにして行けたらと思いますが、実際には悪い方向ばかりが出てきそうです。様々な知恵を突き合わせて、新たなアフターコロナの世界を築きたいものです。
W158	[-]	アジア	日本	大学研究機関	60代	9.社会、経済と環境	環境問題の本質は人間の生き方の問題であり、個々の環境問題に焦点を当ててしまうと解決が難しくなる。われわれ人類はどのように生きるのかが問われているが、これは倫理、道徳、価値観と密接に関係しており、価値観の転換がなされない限り、地球環境問題の解決は困難であろう。では、どうやって人類の価値観を変えるかと言うことであるが、その答えが未だに見つからない。
W159	[-]	アジア	日本	大学研究機関	60代	10.その他	海ゴミ問題、特にプラスチックに関しては今後の対策が重要である。しかし、解決のためには、一方では、温暖化、食料問題などとの競合があり、プラスチック資源循環戦略などの達成にはかなり思い切った手段を取らない限り目標達成が困難である。
W160	[-]	アジア	日本	大学研究機関	60代	1.気候変動	2050年カーボンニュートラルという目標達成に向けては直ちに劇的な変革を行う必要があるが、その意識が社会に共有されていない。
W162	有谷 博文	アジア	日本	大学研究機関	50代	1.気候変動	昨今のCOVID-19感染拡大は人類にとって大変不幸な現実ではありますが、他方で環境面に対しては（副作用として）良化の兆しを見ることが出来る絶好の機会でもあります。進行中の経済停滞などをとに、これまでの非効率的な大量消費から生じた幅広い環境汚染を見直すには極めてよい機会になるのではと期待しつつ、現状起こっている環境面の現実を精査して頂きたいと考えます。

Comments on Q3（自由記述）

No	氏名	居住地域	国名	所属機関種別	年齢	問3 意見に関連する「地球環境の変化を示す項目」	ご意見
W163	藤岡 諭	アジア	日本	地方自治体	60代	8.ライフスタイル	環境問題に対する意識は、関心のある層と関心のない層で、ますます二極分化してきているように思えます。マイクロプラスチック問題の如く、センセーショナルな報道があると、その問題に対してのみ一時的に関心が高まり、実施されている対策に受動的にしたがっている層が相当な割合を占めているように思えます。環境問題に対して系統的な理解ができ、自分自身の生活を主体的に見直すことができる市民の割合を高めていくことが、非常に困難な道程ではありますが、重要なことであると思います。
W167	嘉田 良平	アジア	日本	大学研究機関	70代以上	7.食糧	1) 所得格差、貧困による食料安全保障がさらに厳しくなっている。 2) 新型コロナウイルス・ショックで明らかのように、感染症パンデミックに対する国際連携がきわめて不十分である。危機管理意識の低さが目立つ。
W168	本多 嘉明	アジア	日本	大学研究機関	60代	1.気候変動 2.生物圏保全性(生物多様性) 9.社会、経済と環境 10.その他	気候変動に影響はもはや避けたいと思います。次の開水期までに人類はいろいろな苦難の道を歩むことになると思いますが、その過程で拝金主義でない新しい価値観を見出すことを期待します。次の開水期に人類がよりよい世界を構築するために、この気候変動の客観的かつ科学的記録を残し、後世に伝えることが現在の人類の重要な責務の一つと考えます。
W169	[-]	アジア	日本	大学研究機関	50代	1.気候変動	気候変動に伴う人間社会への影響が、ようやく危機感を持って捉えられるようになったと感じています。
W171	[-]	アジア	日本	その他	60代	1.気候変動	気候変動が確実に進んでいる実感があり、わが国での取組みも進んでいるが、アメリカや中国ロシア途上国など取組が遅れている国が多く、無力感がある。
W172	[-]	アジア	日本	大学研究機関	50代	9.社会、経済と環境	レジ袋の有償化では、根本的な解決にはならないので新たなライフスタイルの提案が必要。
W173	[-]	アジア	日本	企業	50代	1.気候変動	人々の意識・行動は新型コロナウイルス対応で変えられることがわかった。これは政府も同様。新型コロナウイルスのように自分の命が危ないとなると、国民の行動を変える指示を出すことができる。気候変動はまだ先のこととして危機感が薄い。意識改革・行動変容は容易ではないが、もうそう言い出してから数十年たっている。このまま世界は変わらないのか。若者の危機意識の高まりが希望の光。
W174	[-]	アジア	日本	企業	50代	1.気候変動 5.水資源 9.社会、経済と環境	コロナ影響で経済活動が冷え、GHGは減る見込みとのことですが、今後、「アフターコロナ」という状況にそもそも行き着くのか、そのとき国際社会の環境に関する協力体制は残っているのか？という不安があります。
W175	原 孝章	アジア	日本	企業	50代	1.気候変動 2.生物圏保全性(生物多様性)	昨今の大型台風の日本上陸頻度の高さなどから気候変動、地球温暖化を現実として感じます。また、私が幼かった頃と比べて、昆虫などの種類を日常的に目にするのが減っているように感じます。
W176	[-]	アジア	日本	企業	60代	1.気候変動 9.社会、経済と環境	地球温暖化のような、環境破壊に伴う加害が個別ミクロの経済活動の集積によって生じ、しかも加害と被害の関係が直接的、可視的でなく、その関係性が個別の経済活動を行っている原因者には明確に把握、理解されない、しかし被害がグローバルで深刻な環境問題については、個別ミクロの経済活動の主体にどう認識させ、行動変容を導くか、が課題になる。 その観点で、企業等の行動の自己評価ツール、その上で当該評価を審査の上で優遇金利等で支援する取り組みや上乗せ補助で誘導する取り組みなど、政策的な支援措置を一層深化、充実させていく必要がある。
W178	[-]	アジア	日本	その他	70代以上	1.気候変動 8.ライフスタイル 9.社会、経済と環境	再生可能エネルギーの利用についての国民の認識は進んでいるが、発電分野ではまだまだ化石燃料に依存する比率が8割程度ある。しかし、化石燃料の利用効率では改善が見られ、CO2排出量は減少している。安定して経済的な電気の確保をしながら、更なるCO2削減をするために、CCS等の技術開発や水素エネルギー利用技術開発などのイノベーションと自動車燃料転換の中での電気自動車の普及を地域分散型エネルギー利用システムの中に組み込んで、地域自立型エネルギーコミュニティを創出していくことも必要になっていくと考える。
W179	葉山 政治	アジア	日本	NGO／NPO	60代	9.社会、経済と環境	新型コロナによるグローバル化への逆行、復興への資源力の違いにより、再び南北格差の拡大が懸念される。これまで気候変動や生物多様性保全、MDGsに対する南北対立が再燃しかねないと憂えています。
W180	[-]	アジア	日本	NGO／NPO	70代以上	2.生物圏保全性(生物多様性)	住んでいる環境の変化について、短いサイクルでは気づかないが、10年20年のサイクルでは以前と比較して確実に生物多様性が失われていることに気づきます。原因として考えられるのは我々人類の各種の活動、開発、廃棄等が考えられます。生き物との共存が出来ない環境は人類にとっても住みやすい環境とは言えません。
W181	西田 治文	アジア	日本	大学研究機関	60代	10.その他	世界全体として自国主義が台頭し、環境と生物多様性問題への対応が後退している。人類がひたすら続けてきた資源の収奪とそれをめぐる武力による対立抗争は、どこが勝っても地球全体に悪影響を与える時代になったことにまだ多くの国が気づいていない。今や地球からの収奪規模は臨界点を超過しており、このままでは共倒れである。抗争は常に新たな武器の登場によって激化してきたが、その武器はもはや互いに防ぎきれない性能を有するようになり、その使用自体が地球の資源を利用不能にするものとなっている。この問題は技術で解決できるものではなく、国家間の収奪抗争というよりも人類全体の協力体制を構築する方向への思想転換でしか改善されないと考えている。
W182	[-]	アジア	日本	大学研究機関	70代以上	9.社会、経済と環境	EUなどを除き、各国間あるいは国際的な協調の停滞が気になる。
W183	[-]	アジア	日本	大学研究機関	40代	9.社会、経済と環境 10.その他	コロナ危機に見舞われ、環境に関する取り組みや政策が後退していくのではないかと思います。
W185	田中 泰義	アジア	日本	ジャーナリズム	50代	1.気候変動	人類の生存にとって最大の脅威は気候変動と感染症と考えてきた。いずれも日本にとってはまだ先のことかと思われていたが、近年、日本を襲った異常気象と災害、今年の新型コロナウイルスの拡大を踏まえ、じわじわと現実味を帯びてきていると思う。いずれも経済との両立など解決困難な課題であり、分野を超えた連携が必要だと考える。
W187	森野 信義	アジア	日本	大学研究機関	70代以上	9.社会、経済と環境	エゴイズム（自国ファースト、自分だけは）が拡がっている。
W188	[-]	アジア	日本	大学研究機関	50代	1.気候変動 3.陸域系の変化(土地利用) 5.水資源 9.社会、経済と環境	発展途上国を中心とした現在進行している経済発展、人口増加に端を発する環境負荷の急増は、局所的な環境をドラスティックに変化させ、様々な環境問題を生じている。さらに、これに加え先進国によるこれまでの累積環境負荷に伴い、気候変動や生物圏系劣化を広域あくつ長期的に引き起こし、最近になり加速させており、当所推測、予測されていた影響より甚大な影響が生じていることが顕在化してきている。これらの問題に対して、緩和と適応でレジリエントな持続可能な社会を形成しようとパリ協定の締結など画期的な政策を立案してきているが、その実施については非常にスピードが遅く、ここ数年で水害やコロナウイルスなどの感染症など対策より影響の方が進展が早くなっていることが科学的エビデンスとして明らかになってきた。 今後の地球環境、持続可能な社会を形成させるためには、パリ協定やSDGsのような努力目標的な条約締結でなく、やはり定量的な規定・基準を定めた協定を模索する必要があります。さらにそれを確実に進めるためのカーボンプライシングや環境税・環境投資資金など財政メカニズムが必須であり、今更ではあるが、この難局に全世界の英知を集めて戦っていく必要があると考える。
W189	[-]	アジア	日本	地方自治体	50代	1.気候変動	ゲリラ豪雨、異常な高温、竜巻などの台風などから考えるとかなり深刻な状態で、この次には食料危機がくると思っている。
W190	山崎 和雄	アジア	日本	ジャーナリズム	70代以上	1.気候変動 2.生物圏保全性(生物多様性)	私たちが暮らしている日本の状況を見ても、昨年の大型台風の襲来による被害、夏の暑さなど、気候変動が現実味を持っているように感じます。気候変動は当然、生物多様性に変化をもたらすと思います。 コロナウイルスが世界中に蔓延しているのは自然環境の変化とは無関係だと思いますが、もしかしら、温暖化が影響しているのかもしれないと、余計なことを考えたりしています。
W191	[-]	アジア	日本	NGO／NPO	60代	1.気候変動	エネルギーを含めた資源の問題
W192	[-]	アジア	日本	大学研究機関	60代	1.気候変動 2.生物圏保全性(生物多様性) 5.水資源 7.食糧 8.ライフスタイル 9.社会、経済と環境	地球環境問題について頭では認識しているが心で痛みを感じていない人たちが多いように感じている。併せて、心で痛みを感じていても、その改善に向けて行動している人たちが少ないように感じる。私自身も含めてのことではあるが…。

Comments on Q3（自由記述）

No	氏名	居住地域	国名	所属機関種別	年齢	問3 意見に関連する「地球環境の変化を示す項目」	ご意見
W193	[-]	アジア	日本	その他	70代以上	1.気候変動 2.生物圏保全性(生物多様性) 7.食糧	新型コロナウイルスは、地球温暖化、生物多様性の破壊、食糧危機等地球環境問題に密接な関係があるので、根本的なウイルスとの戦いのためにも、地球環境問題に積極的に取り組むことが急務である。
W194	[-]	アジア	日本	NGO／NPO	50代	9.社会、経済と環境	ジェネレーションギャップ、政府と民間の意識の格差、国際協調とは逆の動きなど格差や分断が地球環境問題解決の足かせになっています。若い世代は上の世代との対話は時間の無駄だと言います。 COVID19への対応で国際的な協力の必要性は明らかになっている今こそ、再構築の時だと思っています。
W195	沖 大幹	アジア	日本	大学研究機関	50代	8.ライフスタイル	地球環境問題に限らず、持続可能な社会の構築に向けて、消費性向の意識向上がビジネスや国家・自治体の在り方を変える大きな力となると期待される。
W196	[-]	アジア	日本	企業	50代	1.気候変動 8.ライフスタイル 9.社会、経済と環境	人類の生存環境としての環境の保全に対して、絶望的なほどに状況は改善していない。しかし奇しくも新型コロナウイルスの蔓延によって、世界は生活スタイルを変えることを余儀なくされている。もちろんウイルスは不幸な災害ではあるが、これによって望ましいニューノーマルがもたらされるなら、そこにいくばくかの希望を持てるかもしれない。
W197	[-]	アジア	日本	大学研究機関	60代	3.陸域系の変化(土地利用)	熱帯多雨林が伐採や山火事で減少しているのが心配です。 持続可能な森林経営を期待しています。
W198	横田 弘幸	アジア	日本	その他	60代	1.気候変動	人間は本能的に、今日、明日の生活の糧のために突っ走る。ちょっと振り返る時があっても、その反省は長くは続かない。今回の新型コロナウイルス問題は、人間の過剰な経済活動を多少、セーブする方向に働くかもしれない。その時、気づくのは、そもそも経済活動が過剰だったということなのか、それともやはり豊かな生活の糧の維持なのか。私は残念ながら、後者だと思う。人間は死ぬまで走り続けるしかないような気がしている。
W199	安井 至	アジア	日本	その他	70代以上	10.その他	今回のコロナのパンデミックを経験して、人類というものの脆弱さを改めて認識しました。しかし、これが人類のみが生存できれば良いという人類至上主義に繋がらないように、そもそも、今回のコロナの発生原因を、人類が共有できる形で理解するという作業が不可欠のように思います。
W200	[-]	アジア	日本	地方自治体	50代	1.気候変動 2.生物圏保全性(生物多様性) 6.人口	新型コロナウイルスの世界的な蔓延は、現在生きている人類にとっては、大きな脅威であるが、地球環境の維持には、プラスに働く可能性がある。僅か2カ月程度の人間活動抑制によって、目に見えるような正の環境変化が起きていることは特筆すべきである。一方で、ウイルス等の外圧がなければ、この程度の行動変化でさえ人間は実行できないということも証明された。国際社会が協調し、世界全体での人口抑制が求められる。問1の地域における環境問題も重要であるが、地球全体の環境問題を考える上で、取り組むべきことを考え、行動するべきである。
W201	[-]	アジア	日本	その他	60代	1.気候変動	パリ協定が発効しているが、未だ、目標を達成するには、課題が山積している。
W202	中嶋 隆一	アジア	日本	大学研究機関	60代	9.社会、経済と環境	身近な例として、化石燃料（ガソリン等）仕様車から徐々に電気自動車（あるいはハイブリッド車）に、また、コップ類もプラスチック製品からエコ製品等に変わりつつある。衣類もエコ製品等、環境に優しい製品が次第に出てきている。各企業がESGを意識し、SDGsを掲げて企業の役割と可能性に取り組んでいる。ただ、日本の場合、依然として（大企業と中小企業を含め）企業間格差が大きく、意識の程度に温度差があるように感じる。同時に、支援制度がまだ盤石とはいえない。
W203	[-]	アジア	日本	大学研究機関	60代	1.気候変動 2.生物圏保全性(生物多様性) 4.生物化学フロー(環境汚染) 5.水資源	科学的な正確な知識の啓発が必要と考えます。
W204	藤原 勇彦	アジア	日本	ジャーナリズム	70代以上	1.気候変動 2.生物圏保全性(生物多様性) 9.社会、経済と環境	コロナウイルスは、地球環境問題の一種と感じているが、表1にあるようなこれまでの選択肢の中に、ぴったりに当てはまるものがない。新たな選択肢が必要かもしれない。コロナを経て「社会、経済と環境、政策、施策」の危機が重く表面化してくる恐れがある。個々人の日常生活の中に、生命と生計の危機が当たり前に入り込んでくることにより、地球上の資源を手中に握っていたい欲求が一般に高まり、それが政策に反映されてくる。環境危機時計が、また進んだように感じる。
W206	[-]	アジア	日本	地方自治体	50代	1.気候変動 9.社会、経済と環境	・脱炭素を世界全体で(中国等の例外を許さず)目指すべき。 ・コロナ後の反動に留意が必要。
W208	[-]	アジア	日本	大学研究機関	70代以上	7.食糧 8.ライフスタイル 9.社会、経済と環境	COVID-19により人々のライフスタイルや経済活動が大きく影響を受けており、地球環境を悪化させる要因が少し減少している。この傾向がどのように保持されるのかは不透明である。
W209	[-]	アジア	日本	大学研究機関	70代以上	3.陸域系の変化(土地利用) 7.食糧 9.社会、経済と環境	地方では、空き地や荒れた山林や田畑、廃屋が目立つ。大都市への一極集中を避け、地方を有効利用することが望まれる。この美しい国を守るため、子孫の平和と安寧を守るため、食糧自給率を現在の40％程度からせめて70％ぐらいまではアップしたい。医療や、自動車、機械、精密機器、医療機器等に関する部品や部材の国内供給率をアップさせることも重要と思われる。これらは、国民の生命と財産、健康的な生活、雇用、資源・エネルギー、環境を守るために不可欠と思われる。
W210	[-]	アジア	日本	大学研究機関	50代	9.社会、経済と環境	コロナ後の世界において、環境負荷のリバウンドが懸念される。
W211	[-]	アジア	日本	大学研究機関	40代	1.気候変動 3.陸域系の変化(土地利用)	地球規模での気候変動はもう安定を取り戻せない状態になったと感じる。
W212	[-]	アジア	日本	その他	70代以上	1.気候変動 2.生物圏保全性(生物多様性)	気候変動については、米国など一部の主要国において政治的指導者の理解不足が見られ、各国指導者の問題認識を持ってもらい、パリ条約の実行を強く望む。生物の多様性については、経済的貧困から生息地の住民に生物多様性を阻害する行為がある。また同時に、一部消費者にワシントン条約違反が見られ、生物多様性の意義について理解不足がある。ワシントン条約の順守の方向に向けて各国当局の努力が必要である。
W214	[-]	アジア	日本	地方自治体	70代以上	1.気候変動	昨年から集中豪雨が、ひどくなり、自然災害が増加してきています。北極海の氷の減少、南極の氷の減少、ヒマラヤの節減の減少など、地球温暖化を示す指標は加速度的に増えてきているように思えますが、すぐに身の上に甚大な被害を起こすことは環境問題には少なく、一般の人に働きかけることは困難と言えますし、アメリカのように経済優先の論法で来られると、一般の人は受け入れてしまうのが現状です。
W215	中静 透	アジア	日本	大学研究機関	60代	2.生物圏保全性(生物多様性) 3.陸域系の変化(土地利用)	最近の新型コロナウイルスの感染拡大は、人間の人口増加と移動拡大に加えて、作物や家畜の増加によって、ウイルスの進化速度が増していることに大きな原因がある。もっと、生物資源や生態系の利用に関してのリスクを意識する必要がある。
W216	外川 健一	アジア	日本	大学研究機関	50代	8.ライフスタイル	今回の新型コロナパンデミックで、温室効果ガスが削減されたような報告があることから、生活様式の変革が重要であると心から感じています。
W217	前 章裕	アジア	日本	NGO／NPO	60代	6.人口	根本的な解決のためには人口増を押さえる必要がある。一時の予想からみればずいぶん抑制がかかってきたようにみえるが、さらなる努力が必要。特に、サブサハラ地域における女性の生涯出産数の抑制が重要で、そのためには、多く生まなくとも満足した将来が見通せるような国づくりが求められる。
W218	中澤 隆雄	アジア	日本	大学研究機関	70代以上	1.気候変動 4.生物化学フロー(環境汚染) 5.水資源 8.ライフスタイル 9.社会、経済と環境	最近のコロナウイルス禍によって、世界的にライフスタイルの見直しが国や個人レベルでも進んでいるように見受けられるが、一時的なもので終わらせないようにすることができるかが課題である。人間はどうしても安きに流される傾向が強い。禁欲的な生活を強いるつもりはないが、利便性を求めるばかりの生活様式を見直し、日常的に実践することを自らに課すことで、まずは個人レベルでそれぞれの消費生活様式の改善を図ることが肝要と思われる。そのうえで、地域社会や国レベルへの広がりを求めていければと考えている。また、そための啓発活動や教育・研究に今後とも鋭意取り組むことが極めて重要である。
W220	[-]	アジア	日本	大学研究機関	70代以上	4.生物化学フロー(環境汚染) 6.人口 9.社会、経済と環境	現在の地球環境問題は、地球の容量を超える人類の欲望の膨張に起因している。 本質的な生活水準の向上に無関係な、見かけだけの経済成長を求めず、地球容量の中での人類生存を考えるべき時代。

Comments on Q3（自由記述）

No	氏名	居住地域	国名	所属機関種別	年齢	問3 意見に関連する「地球環境の変化を示す項目」	ご意見
W221	郡 嘉 孝	アジア	日本	大学研究機関	70代以上	1.気候変動	我が国の制度・政策に一貫性がなく、優先順位が明確でない。海洋プラスチック問題でも、海外では、気候変動問題として捉えられ、気候変動問題と整合性をとり、もぐらたたきにならないように枠組みを設定しているのに、我が国では、個別に流行？を追って、単に予算取りの道具になっている。環境問題は流行の問題ではなく、あらゆる様々な環境問題を整合させることを試み、できれば、優先順位を明確にし、国民の合意を取りながら進めるべき問題。
W222	[-]	アジア	日本	大学研究機関	50代	1.気候変動	近年、台風や大雨による天災が多くなり、気候変動を意識させる事項が多くなっている。また、環境に配慮する政策や施策についてはほとんど進んでいない。このような環境政策については政府がもう少しリーダーシップをとるべきであると考えます。
W223	[-]	アジア	日本	大学研究機関	60代	8.ライフスタイル	日本のエネルギー事情に対する認識が浅いままで社会が進行している。エネルギー問題の解決なくして気候変動の問題解決や持続可能な社会の構築は不可能である。エネルギーに関する国民の意識の深まりが極めて重要である。
W224	[-]	アジア	日本	中央政府	60代	4.生物化学フロー（環境汚染）	マイクロプラスチックによる汚染の実態がやっと詳しくわかってきているが、なかなか対策が十分になされていないのが実情である。地球温暖化については、異常気象の多さに代表されるように一般市民に事態が実感されている。それに対しマイクロプラスチックの汚染については、一般市民の関心が低いのが現状であることを憂えています。レジ袋削減は一つの象徴だと思いますが、それだけでは不十分であり、何とかしたいと思います。
W225	徳永 哲也	アジア	日本	大学研究機関	60代	1.気候変動 2.生物圏保全性(生物多様性) 8.ライフスタイル 9.社会、経済と環境	SARS,MARS,COVID19と来て、やはり人類は地球に食い込みすぎたな、と感じます。教育現場の「ICTへの転換」も、どこか思着せがましく、人間の本来の営みから離れていっていると思います。しかもここから、貧富差はもっと広がりますし、この状況を新しい商売にして世界に覇権を広げようとする勢力はいるし、困ったものです。地に足をつけて、弱者がともに救われる環境学、環境政策を提示したいですね。
W227	[-]	アジア	日本	NGO／NPO	60代	8.ライフスタイル 9.社会、経済と環境	一般の人々が自主的に応分の責任を果たすことが望まれる。
W228	[-]	アジア	日本	大学研究機関	60代	9.社会、経済と環境	今回のCOVID-19の問題も不注意な自然生態系の破壊が原因とされている。またそのことが原因で社会経済活動に大きな影響を与えている。これを教訓にして真の持続可能な社会の発展とはどうあるべきなのかを考える必要がある。
W229	[-]	アジア	日本	NGO／NPO	60代	10.その他	地球環境としては日本にいてだけでも、近年は温暖化の進行や風水害の激甚化や海洋汚染進行などが我々の日常生活に様々な影響を与えておりそれらを実感できる現象が増えていることから、より有効な対応の実現が必要な段階を迎えている。 一方、政治的には、最近の米中両大国の例えばパリ協定からの離脱やそれを対象外とする対応や、日本政府の原子力や石炭を柱としたエネルギー政策など、憂慮すべき事象が多いが、個々の様々な環境活動やネットワークを通して、地道にこれらを少しずつでも良い方向に変化させて行き、だんだん大きな流れになるようにすることが大切である
W230	佐竹 敬久	アジア	日本	地方自治体	70代以上	1.気候変動 2.生物圏保全性(生物多様性) 3.陸域系の変化(土地利用) 5.水資源 7.食糧 8.ライフスタイル 9.社会、経済と環境 10.その他	世界の状況と同様に、本県においても平均気温の上昇が続いている状況にあり、数年前から顕著となっている夏季の猛暑、強烈な台風、大雨に加えて直近の冬期間は経験したことがない暖冬・少雪となり日常生活の中で気候変動を実感できる状況となっている。 このまま地球温暖化が進行した場合、地域の気候に適応し長年に渡って蓄積されてきたインフラ、文化、産業構造(特に農林水産業)、生活様式が通用しなくなる懸念が大いにある。また、生態系については破壊のみならず従来その地域には存在しなかった害獣その他の有害生物の進出、感染症の蔓延などの不安もある。 温室効果ガスの削減、省エネルギーによる地球温暖化の抑制に加えて、切迫感を持って対応を進めるために法整備を含む政策の推進、技術開発・普及、一人ひとりの危機感・認識を高めていくことが必要であると考え。
W231	[-]	アジア	日本	地方自治体	50代	8.ライフスタイル 9.社会、経済と環境	地球環境問題は、現代だけにとどまる問題ではなく、私たちの子や孫の世代はもちろん、そのずっと先の世代まで、多大な影響を及ぼすものである。未来の世代への責任を果たすためにも、私たちはあらゆる方法で持続可能な社会への道を模索していく必要がある。
W232	磯部 作	アジア	日本	その他	70代以上	1.気候変動 4.生物化学フロー（環境汚染） 9.社会、経済と環境	地球温暖化が急速に進んでおり、人類の存続をも左右しかねないような状況になってきているため、二酸化炭素などの温室効果ガスの排出を大幅に削減する必要がある。そのためには自然再生可能エネルギーへの転換、二酸化炭素の排出量の多い産業や運輸部門などでの排出削減が重要である。 また、プラスチックをはじめとする海ごみを大幅に減少させなければならない。そのためには、現在海底などにあるごみを小型機船底曳網などで回収すること、河川流域などからのごみの発生を抑制して海に流入するごみを削減することなどとともに、ごみを大量に発生させる大企業中心の大量生産、大量流通、大量消費、大量廃棄の社会システムを変更し、使い捨てプラスチックや過剰包装などを禁止して石油化学製品であるプラスチックの使用量を大幅に削減することが必要である。 河川流域からのごみの発生は洪水時に最も多く、近年では地球温暖化によって洪水がより激化してきているだけに、海ごみ問題の解決のためにも地球温暖化防止は重要である。
W234	建石 隆太郎	アジア	日本	大学研究機関	60代	9.社会、経済と環境	人類の快適な存続を目的として地球環境問題に対応するためには人類全体としての意思決定のメカニズムが必要である。しかし現在は国家単位で意思決定がなされ、人類として適切な方向を定めることが難しい状態にある。この状況下でできるアプローチは一般人に対する地球環境問題の科学的な知見の啓蒙であろう。この意味で旭硝子財団のブループラネット賞の意義は大きい。
W235	今井 通子	アジア	日本	企業	70代以上	1.気候変動 2.生物圏保全性(生物多様性) 3.陸域系の変化(土地利用) 4.生物化学フロー（環境汚染） 5.水資源 9.社会、経済と環境	今回は、前回アンケートと比べ、時計を10分戻してみました。これには、人類にはできない地球レベルの人類に対する攻撃が地球環境にとっては功を奏する可能性を想定してみたからです。改めて地球環境問題を見直すチャンスが示唆されます。 6月以降の事は解りませんが、COVID-19によるパンデミックで少なくとも1/4年分の航空機をはじめとする各種交通手段が減少した、一部の産業が止まり、排ガスや有害廃棄物や汚染水が減少した等々、地球自体にとっては一時的ではありますが、自然状態に逆戻りした物事があったはずで。一方で、移動が制限された人々が各々一か所ですぐの電力その他エネルギーを消費したのではとも考えられます。又、野山や海洋の動植物はのびのび過ごしたでしょう。 大気や水質、生物多様性等にどのような影響が出たのか今後の研究が待たれます。人類が政策、法制度、SDGsも含め、地球環境を守ろうと国際的に数々の約束をしても中々好転しなかった地球環境を、もしSARS-Cov-2が1つでも地球環境上、好転させたとしたら考えると、人類は根本的に考え方を変化させなければならないのではという事が示唆されます。
W236	[-]	アジア	日本	大学研究機関	60代	1.気候変動 7.食糧 8.ライフスタイル	コロナ禍により、我々には以前には考えられなかったような多様な経験をしている。このまま、ただもともにもどるのはいらないと思います。例えば、対面情報を重視してきた日本は、企業の交際費は米国の4倍、ドイツの6倍といわれています。東京一極集中で、地方企業や出張所社印はしょっちゅう東京に出張しなければならない。情報化社会が進んでいない証拠とも言えます。これらの価値体系を見直すよい機会となつてほしいです。
W237	梅村 一之	アジア	日本	大学研究機関	60代	1.気候変動 8.ライフスタイル 9.社会、経済と環境	21世紀において地球環境に最も大きな影響を与えている要因は、紛れもなく人類の活動にあると考えています。 人類の活動要因としては、石油・石炭・天然ガスから鉱物などに至る資源開発から、これらを用いた生産活動、さらに宗教や民族、貧困と差別等々に根ざした地域紛争もまた地球環境への負の要因として作用しているように思います。 こうした問題を解決する手立としては、そう簡単ではありませんが、まずは20世紀型の大量消費社会と人口問題を是正すると共に、相互理解による『和解力・政治力』が鍵となるように思います。 新型コロナウイルスによるパンデミックに揺れるなか、世界が自国主義に陥るのではなく、協働で対処できるかが試されているのかと思います。
W238	[-]	アジア	日本	大学研究機関	30代	9.社会、経済と環境 10.その他	感染症も十分、地球環境の変動と関係するのではないかと。

Comments on Q3（自由記述）

No	氏名	居住地域	国名	所属機関種別	年齢	問3 意見に関連する「地球環境の変化を示す項目」	ご意見
W239	[-]	アジア	日本	大学研究機関	50代	10.その他	都市化、農村・地方都市の過疎化による人獣接近とグローバルなネットワークの急速な発展と都市の過密化などが、いまのような新型コロナウイルスのパンデミックが起きていると考えられる。これらは従来のカテゴリーからはみ出る、あるいはそれらにまたがる重大な問題であり、地球環境の危機として今後もモニターしていく必要があるのではないか。
W240	板倉 賢一	アジア	日本	大学研究機関	60代	4.生物化学フロー(環境汚染) 8.ライフスタイル 9.社会、経済と環境	気候変動は別として、アジアの消費者は地球環境、特に環境汚染に対する危機意識は高まり、改善の技術も十分発達してきたと言える。問題は、その技術の利用を促す経済環境、政策の欠如ではなかろうか。経済利益を優先する一党独裁の政権下では、それが顕著と言わざるを得ない。
W241	星野 一昭	アジア	日本	大学研究機関	60代	1.気候変動 2.生物圏保全性(生物多様性) 3.陸域系の変化(土地利用)	米国大統領による科学を無視した政策の実施が気候変動問題をはじめとする地球環境問題への国際協力の促進を妨げている。また、ブラジル大統領による熱帯林開発の促進政策も気候変動対策、生物多様性保全の観点から深刻な危機を招いている。IPCCやIPBESの活動など、世界の科学者の英知を集めて行われている環境問題への科学的評価が世界中の政策決定者や政治家に真摯に受け止められるように、科学の側からの一層強力な働きかけが必要とされており、そうした取り組みを期待する。
W243	[-]	アジア	日本	大学研究機関	60代	1.気候変動 5.水資源 8.ライフスタイル 9.社会、経済と環境	地球規模での気象現象の空間的時間的な変動が大きくなっている。災害頻度が高まっているだけではなく、水資源量も減少している。農地を中心とした水と緑のネットワーク、水資源と森林資源の保全は地域の生態環境を守る上で最重要課題である。原子力利用は最小限（研究開発のみ）にとどめ、再生可能エネルギーの技術革新と利用に努め、低エネルギー社会を実現する。ICT技術の導入による働き方改革をすすめることによって、一極集中型の都市機能や人口分布を見直し、地方再生につとめ、国土全域の有効活用に努めること、食料資源、水資源、エネルギー資源の消費を分散させ、地産地消など地域完結型の社会構造を構築し、地方の文化や伝統を守り、個性にあふれた地域を次の世代に継承する。そして何よりも大切なのは、質の高い教育を推進し、将来を支える心豊かな若手人材の育成に全力を尽くす。
W245	[-]	アジア	日本	大学研究機関	50代	1.気候変動 2.生物圏保全性(生物多様性) 3.陸域系の変化(土地利用) 8.ライフスタイル 9.社会、経済と環境	1.～5.の個々の事象は密接に関連しており、個々に独立の問題として解決しにくいものではないかと思う。そしてそれはある程度以上、9.の社会・経済のあり方が1つの根本原因だと私は考えている。21世紀に入ってから幸福論の台頭と共に、経済学の論調でも「20世紀型的大量生産／大量消費によるモノの経済は終焉した。モノの消費は人間の幸福にとって本当に必要でない」という見解が増えてきた。我々は実際、「バブル崩壊と失われた20年」、「リーマンショック」等大きな衝撃を受けてきてその度に「もっと豊かに、もっと豊かに」との姿勢が本当に意味あるものか。経済偏重という社会の哲学を再考する機会を与えられていたのではないか。 経済優先の社会は、日本でも戦後そうだったように、社会の第一段階のテーゼであり、それは「まず衣食住を確保する事、そうして幸福の基盤としてのモノの豊かさを必要な分だけ獲得する事」である。そこに異を唱えはしないが、問題は社会の第2段階である。十分モノの豊かさを獲得したのなら、第2段階としてより高次元の豊かさを社会のテーマとして標榜すべきである。それは少なくとも事精神的な高次元のテーマではある筈だ。いつまでも哲学なく「もっと豊かに、もっと豊かに」と言い続ける事で、地球環境を我々は破壊してきている。
W246	西川 榮一	アジア	日本	大学研究機関	70代以上	1.気候変動 2.生物圏保全性(生物多様性) 3.陸域系の変化(土地利用) 5.水資源 6.人口 7.食糧 9.社会、経済と環境	この度のCOVID-19感染問題を見て、1970年代の頃か、もう随分昔に読んだので署名も著者も憶えませんが、「人類が今のような生産の拡大を続けていたら、そのうち、環境問題かウイルスか、大きな災厄に見舞われる」と指摘されていたのを思い出しています。感染が世界規模でまん延し出して5か月余、COVID-19感染問題がさまたげに論じられていますが、COVID-19の出現の要因に地球生態系の変化を挙げる論者もおられます。そうだとすれば新型コロナ感染も地球環境変化に起因する災厄の1つ、そしてその地球環境変化、その主因が人類の営みにあることは最早論を待ちません。ポストコロナを論じて、このウイルス問題をきっかけに人も人類社会も変わる、いや変わらねばならないと指摘する識者も少なくありません。ではどう変わるべきなのか、その基本方向については環境問題の視点に立った深い考察が重要と思います。
W247	[-]	アジア	日本	大学研究機関	60代	1.気候変動 4.生物化学フロー(環境汚染)	気候変動は、温室効果ガスによる地球温暖化現象が主因であるが、自分自身の行動を考えると温室効果ガスの削減に寄与しているかと言えば、必ずしも削減の行動をとっているとは言えない。今大事なのは、自分自身の行動を考え、自ら少しでも良いからできることから温室効果ガスの削減に寄与できる行動はどのようなものかを考える必要がある。私は、環境関係の教育に携わっているが、自らの行動を律して、学生たちにどのような行動をとればよいかを考えさせる教育をしていく必要があると思われる。自分自身の行動を振り返ってみると、学生たちに教える資格があるか、恥ずかしい限りである。なぜ、このようなことを書いたかと言えば、人間一人一人が、地球温暖化や環境問題についてどのような行動をとっていけば、将来、これからの子供たちにとってより良い地球環境が保たれるかを考えていく必要があると思ったからである。一人一人が、行動を律して行けば、地球の人類の輪がつながり、大きく、地球環境は良い方向に変わっていくと思われる。何がイニシアチブかと言えば、最も大事なことは心であり気持ちである、その情熱を行動に変え地球環境をより良い方向へ変えていくことが大事だと思う。
W248	高梨 秀一	アジア	日本	その他	60代	1.気候変動 9.社会、経済と環境	SDGsを知り理解する手段として、あのカラフルで綺麗な17のシンボルマークを身に付けている方が多くなってきたが、そのゴール達成のため、「自分たちが、何をどう行動し・達成させるのか」がまで考えていない人もたくさんいるような気がする。環境施策の達成のための目標が、「言葉遊び」で終わってしまっているのではないかと心配している
W250	[-]	アジア	日本	企業	30代	1.気候変動	気候変動問題は危機的状況であるにも関わらず報道や政策や教育が追いついておらず、まだ専門家、関係者の中の話題にとどまっている。 ドラスティックな変革が必要と叫ばれてから時間ばかりが過ぎていて焦りが増す。 欧米はコロナ禍による経済政策と気候変動対策をセットで対応しようとしているがもともと立ち遅れている日本は経済政策のみ。 世界との差が開くばかりなので、日本もいよいよ本腰を入れて痛みを伴おうとも気候変動対策を行うべき。
W251	榎本 晃章	アジア	日本	その他	70代以上	1.気候変動 5.水資源 7.食糧 8.ライフスタイル	国連のSDGsが示す通り、貧困・飢餓などの状況が、一層悪化している。人材・資金など必要な投入資源は、まず、SDGsの初めの方に掲げられている課題に優先的に割り当てるべき。日本、ヨーロッパ諸国など先進国は、そのような現実を見て見ないふりして、地球温暖化問題重視ばかりを声高に主張している。先進国のわがまとしてしか言えない。 今回のパンデミックで、この点は、大きな落差として浮き彫りになっている。
W252	[-]	アジア	日本	大学研究機関	60代	1.気候変動 2.生物圏保全性(生物多様性) 3.陸域系の変化(土地利用) 5.水資源 7.食糧 9.社会、経済と環境	地球温暖化は地域的な自分の住む地域の豪雨や猛暑の急増を引き起こしている。災害の増加を通じて、社会もそれを感じ始めていると思うが、それがどこまで逼迫したもののか、個人の行動が状況の改善をもたらすことができるのかといった精確な情報が得られないために、実際の行動に移らないまま悪化していく状況が続いていると思う。もっとも、生活に困窮する場合には、長期的気候変動などよりも今日の食事の方が重要であることは確かなので、政策は貧富の格差を減らすことにも重点をおくべきである。大企業には地球環境問題および貧困問題に取り組むことを必須課題とする必要がある。地球温暖化模疑説などの都合のいい説を持ち出して時間稼ぎをしている余裕はなく、気候変動対策は国家安全保障の重要問題であることをしっかりと学んで政策を立ててほしい。また、豪雨や猛暑のような直接的な災害の他に、世界の水資源の変化やそれに伴う食糧生産の変化、世界の生物多様性の破壊による生活への影響、森林破壊による気候変動の加速などについて、社会に向けて定量的でわかりやすい発信を行うことも重要。様々なレベルでの改善方法とその効果についても発信すべきである。
W253	柏木 実	アジア	日本	NGO／NPO	70代以上	1.気候変動 2.生物圏保全性(生物多様性) 5.水資源 9.社会、経済と環境	気候変動の問題に関しては、二酸化炭素放出、オゾン層破壊など数値化された指標によって経済的な対処が行なわれ、この部分では各国の取り組みが進展してきました。また、生物多様性に関しては世界生物多様性概況が出版され、改定を重ねる中で、問題の深刻さへの認識が深まり、また、世界的な取り組みの目標としてのSDGsが発表され、生物多様性が社会の問題とつながった問題として認識されるようになってきました。数値化が試みられながらも必ずしも成果につながらず、対処は徐々にでしかありませんが、企業も含めて、世界的に考慮されるようになってきたことはとても良いことだと思います。しかし、水と陸地との接点であり両者の生態系、そして生物多様性を育む現場である湿地については、世界湿地概況という報告書がラムサール条約から発行されましたが、湿地の機能と恵みについての認識は依然として高くありません。環境への取り組みは政策や、企業による取り組みがなければ、抜本的解決にはつながりません。残念なことに数値化し難いものは取り組みが行われるが、それが難しい事例は政策にも、また企業を含む社会全体の活動につながりにくい。科学に基づく知見が、生き物の保全活動につながれば、人類にとっても、社会にとっても明るい未来という希望につながるのですが。湿地に関わるものの力不足もあり、知見が理解されていないこともあり、道はまだまだ遠いことを実感しています。

Comments on Q3（自由記述）

No	氏名	居住地域	国名	所属機関種別	年齢	問3 意見に関連する「地球環境の変化を示す項目」	ご意見
W254	田中 和博	アジア	日本	大学研究機関	60代	1.気候変動 2.生物圏保全性(生物多様性) 3.陸域系の変化(土地利用) 4.生物化学フロー(環境汚染) 5.水資源 6.人口 7.食糧 9.社会、経済と環境	環境問題に取り組む場合のキーワードは動的平衡であると考えます。人間、他の生物、環境がバランス良く動的平衡を保てることが循環型の持続可能な社会の要件であると思います。しかし、気候変動の時代に入り、動的平衡が大きく崩れ始めました。しかし、社会、経済や政策、施策は相変わらず現役世代の利害を優先しており、将来世代の環境を保全する方向には向いていないと感じています。地球温暖化や気候変動によって生物多様性が低下し、さらに環境の劣化が進みます。病虫害も多く発生し、食糧生産にも様々な困難な課題が生じるでしょう。短期的な視野に基づく効率化の思想は、無秩序な土地利用や環境汚染につながることが心配されます。清浄な水は貴重なものになるでしょう。人口増加の問題もありますが、経済的な格差の拡大（－その他の項目です）がより重大であり、環境問題に真摯に取り組もうとする人々の気持ちを、経済的な理由が奪っていくのではないかと心配しています。気候変動や環境問題に前向きに対応できる新しいライフスタイルの提案が求められていると思います。
W255	[-]	アジア	日本	大学研究機関	60代	1.気候変動 3.陸域系の変化(土地利用) 8.ライフスタイル 9.社会、経済と環境	パリ協定で世界のすべての国が参加することになったが、アメリカが離脱し、各国の意見もバラバラで温暖化などによる気候変動の危機は益々高まっている。新型コロナウイルスでほとんど取り上げられていないが、北極では史上最大規模のオゾンホールが今年観測されており、紫外線量も増加している。ライフスタイルを考え、適切な政策を策定し、実施する必要があるが、日本も世界もそのような状況にはなく、今後が誠に懸念される。
W259	[-]	アジア	日本	大学研究機関	40代	1.気候変動	2020年5月現在において、新型コロナウイルスの影響により、これまでにない生活の変化に対応せねばならなくなっている。しかし、この感染症の脅威は気候変動による影響の一つとして少なくとも20年以上前から指摘されてきたことであった。したがって、指摘だけではなく、それによりどのような影響が最悪の状態で起こりえるのかということ準備しておく必要があるということを我々は知ったのである。 東北の地震の際も、過去に地震による津波の記録があったにもかかわらず、それは一部地域では伝達されていても、有事の際の最悪の状態は想定できなかった（それを責めているのではなく、なんとかしていく必要があると申し上げたい）。今後、地震や洪水に対する備えはやはりこれまで以上に必要であり、被害が少しでも軽減されるように、何としても被害が重篤になるのを防がねばならない。 今回のコロナの件でも問題となっているように、インフラの整備も急務であると思われる（ただし、電気がない何とでもできない状態にはならないように）。
W261	井村 秀文	アジア	日本	大学研究機関	70代以上	1.気候変動 2.生物圏保全性(生物多様性) 3.陸域系の変化(土地利用) 7.食糧	大型哺乳動物をはじめ、多くの生物種が絶滅の危機にある。多くの種が、動物園のような人工的飼育環境でしか生存しなくなる。これは、人類の大きな責任である。気候システムをはじめとする地球生態系のバランスの崩れは、何らかの形で、世界の食料危機をもたらすのではないか。コロナウイルスの蔓延が予想できなかったように、気候変動にともなう旱魃、洪水、熱波、山火事、イタゴの大発生などを通じて、農業生産への打撃が突然起きる可能性がある。そうしたショックは色々考えられるが、食料危機が最大の懸念である。たとえ世界全体での供給量は十分であっても、世界各国は自国中心主義に走るに違いない。食料自給率の低い日本にとって、その影響はとてつもない。どのような巨大技術も、ハイテクも、その危機には役に立たない。そうしたショックによって初めて、人類は気候変動の深刻な影響を肌身を感じることになるだろう。
W262	[-]	アジア	日本	NGO／NPO	60代	1.気候変動	温暖化ガスは吸収は重要だが排出量の削減を最優先すべき。
W263	西岡 秀三	アジア	日本	大学研究機関	70代以上	9.社会、経済と環境	このところのコロナへの経済面過剰（環境破壊型）対応と国際協力を遅らせる政治的うごきとあいまって、地球環境を悪い方へ振らす懸念が大になってしまいました。人類の理性でGreen recoveryに期待するしかありません。今はやや悲観的になっています。
W264	[-]	アジア	日本	企業	50代	10.その他	皆さんが地球温暖化防止活動に真剣に取り組んでおります。しかし、米国のトランプ氏のような方がトップではダメですよ。米国の工場へ環境の打ち合わせに何ったらCO2はなんで削減しないといけないのと、工場長が言っていた。教育が必要です。トランプ氏も子供のころに親や学校で環境に関する教育を受けていれば、違ってしまう。大変可哀そうな方です。しかし、彼を認めた米国民は考え直してもらいたい。
W265	[-]	アジア	日本	企業	60代	1.気候変動 9.社会、経済と環境	地球環境問題の中でも地球温暖化は確実に悪い方向に進んでおり、国の政策や施策に実効性が乏しく対応が遅れていると思われる。国や地方行政がやる者としてのことは、実行面で企業や最終消費者の行動に訴えかける力が弱いように感じる。まず何より企業や消費者が地球温暖化対応の重要性を十分理解し、納得の上で個々の行動に繋げていかなければならないと思う。
W268	[-]	アジア	日本	大学研究機関	60代	6.人口 8.ライフスタイル 9.社会、経済と環境	COVID-19のパンデミックは、経済活動の低下をもたらし、CO2排出量が減ったり大気汚染が改善したりするなど、人間活動がいかに地球環境に大きな影響を与えているかを実感する機会ともなった。一方で、昨日までの当たり前の生活を突如として当たり前でなくしたパンデミックは、21世紀における人類の文明のありかたそのものを厳しく問うている。人類はこの地球という限られた環境でどう生きていくのか、根源的な問いが投げかけられている。この機に、地球環境を大きな視野でとらえ直すこと、そして、調和ある持続可能な未来に向けて新たな地球環境観を育み、行動していくこと、それが私たちに求められていると思う。
W269	[-]	アジア	日本	企業	60代	1.気候変動	新型コロナウイルスの出現により生態系との関り方への関心が以前よりは増しているように思います。 これからは環境か経済かと言う二項対立ではなく、環境も維持・改善させながら経済的な豊かさを実現し、持続可能な世の中にしていくことがますます求められていると思います。 ヨーロッパで立ち上がったグリーンリカバリーイニシアチブの取り組みが日本でも必要だと思いますが、情報が少なく行政や企業活動への影響もそれほど感じられません。グリーンリカバリーやサステナブルリカバリーが思考や行動の基準となるよう、情報発信が必要だと思います。
W270	[-]	アジア	日本	企業	50代	1.気候変動 2.生物圏保全性(生物多様性) 3.陸域系の変化(土地利用) 4.生物化学フロー(環境汚染) 5.水資源 6.人口 7.食糧 8.ライフスタイル 9.社会、経済と環境	どの項目も地球環境問題に密接にかかわっていると考えているが、時に人の生命維持活動には気候変動が水資源が大きく関係していると思し、大きな改善はなされていないと思う。大きな変革を起こさなければならない時期が迫っていると思う。